

令和3年度
事業報告書

川崎市総合教育センター

はじめに

令和3年度は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を大きく受けた1年となりました。それでも、各学校では、感染リスクを可能な限り低減した上で、創意工夫のもとでの教育活動を進め、川崎市の子どもたちの豊かな学びを保障していただいております。各学校の教職員の皆様のご尽力に改めて深く感謝を申しあげます。

令和3年度の教育の動向といたしましては、かわさき教育プランの第2期実施計画は最終年度に、そして、新しい学習指導要領は中学校において全面実施されました。また、かわさき GIGA スクール構想は、1人1台の GIGA 端末の配布を終え、ステップ0・Iとして、さまざまな授業・教育活動において効果的な活用に向けての取組を進めました。

そのような中、令和3年1月の中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の重視と、一体的な充実を目指し、一人一人の子どもを主語とする学校教育の姿を描いており、その具現化に向けた歩みを加速させる必要が求められております。

川崎市総合教育センターは、コロナ禍においても、求められる教育を踏まえ、子どもたちに「生きる力」を確実に身に付けることや、一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応すること、そして、それらを推進する学校の教育力を強化することなどを支援するために、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5センターが、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。

本報告書は、本センターの一年間の事業内容の概要を次の8つの柱に沿って報告し、その内容を広く知っていただくとともに、次年度以降の業務改善に生かしていくものです。

- ① 組織・事務分掌等：組織体系、各種会議、専門員、運営会議、予算等
- ② 調査研究：研究推進の基本的な考え、実践研究、調査・基礎研究、施策研究、研究報告会等
- ③ 教育関係教職員研修：川崎市教員育成指標に沿ったライフステージに応じた必修・希望研修等
- ④ カリキュラムセンター事業：学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動への指導・支援等
- ⑤ 情報・視聴覚センター事業：川崎市立学校における教育の情報化推進計画等
- ⑥ 特別支援教育センター事業：第2期川崎市特別支援教育計画の実施、教育相談、就学相談等
- ⑦ 教育相談センター事業：教育相談、ゆうゆう広場、スクールカウンセラー派遣等
- ⑧ 広報及び刊行物：所報、要覧、研究紀要等

令和4年度は「かわさき教育プラン第3期実施計画」が実施されます。また同時に、「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」もスタート、そして、高等学校においては、新しい学習指導要領が年次進行で実施されます。コロナ禍の動向を含め、「予測困難な時代」の中、川崎市総合教育センターは、これからも研究と研修に基づく人材育成と学校支援に努めてまいります。

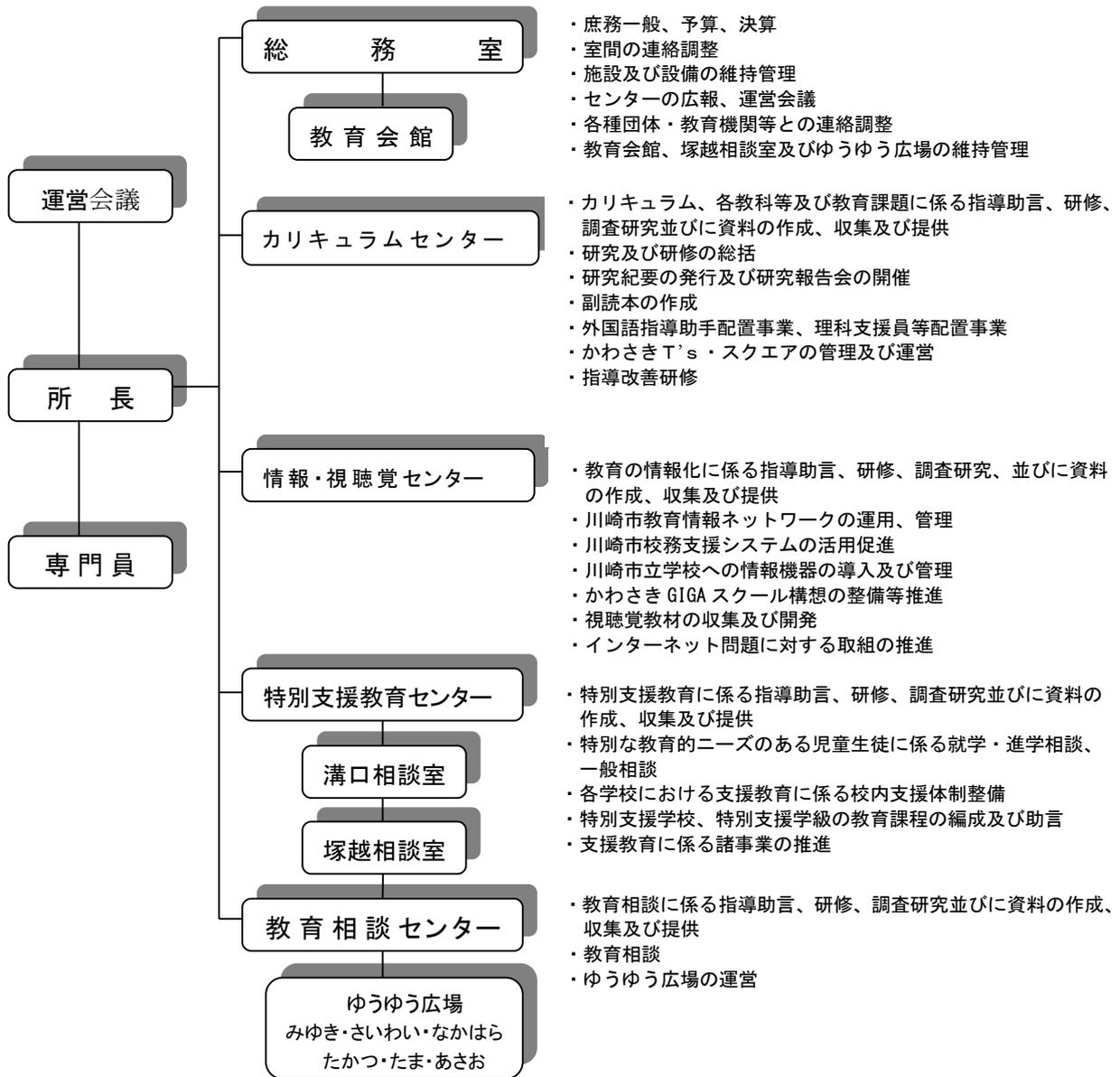
最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申しあげます。

川崎市総合教育センター
所長 鈴木 克彦

目 次

組織・事務分掌	1
所員一覧	2
運営会議委員・専門員・教育相談センター専門員	3
予 算	4
研究体系図	5
1 調査研究	6
2 教育関係教職員研修	15
3 カリキュラムセンター事業	24
4 情報・視聴覚センター事業	28
5 特別支援教育センター事業	34
6 教育相談センター事業	39
7 広報及び刊行物等	44

組織・事務分掌



会議

- 管理者会議(月2回)
センターの管理運営に係る重要事項について検討する。
- 専門職等会議(年間5回)
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え検討する。
- 学校支援連絡調整会議(年3回)
学校教育部、教育政策室、生涯学習部及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間3回)
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

担当者会議(月1回)

- 研究推進担当者会議
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議
『所報』の発行、『センター通信』等の広報活動の計画、推進

指導主事研修(年3回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

令和3年度 川崎市総合教育センター 所員一覽

令和3年10月1日現在

No	所屬	職名	氏名	No	所屬	職名	氏名	No	所屬	職名	氏名
1	総務室	所長	佐藤 公孝	52	情報・視聴覚センター	事務職員	本竹 史弥	101	教育相談	塚越相談室電話相談員	★高橋 敏昭
2		室長	小嶋 健司	53		事務職員	金谷 学	102		塚越相談室電話相談員	★石塚 綾子
3		係長	栗須 正則	54		指導主事	岸本 孝司	103		塚越相談室電話相談員	★遠藤 敏夫
4		係長	弘田 喜紀	55		指導主事	和田 俊雄	104		塚越相談室電話相談員	★金野 昌暢
5		主任	伊藤 和美	56		指導主事	草柳 讓治	105		家庭訪問相談員	藤原 靖
6		主任	福原 佑子	57		指導主事	福山 創	106		家庭訪問相談員	松野 まゆみ
7		事務職員	高野 祐也	58		指導主事	新田 瑞江	107		心理臨床相談員	八巻 絢子
8		主任(再任用)	坂本 光弘	59		指導主事	金子 裕輝	108		心理臨床相談員	小出 佳央理
9		主任(再任用)	阿部 信一	60		指導主事	吉田 進	109		心理臨床相談員	本多 由依
10		施設管理嘱託員	荻原 恭子	61		指導主事	杉本 昌崇	110		心理臨床相談員	早坂 桃花
11		学校マネジメント改善専門員	芹澤 成司	62		指導主事	石橋 純一郎	111		心理臨床相談員	岩船 真由子
12	カリキュラムセンター	室長	辰口 直美	64	特別支援教育センター	情報視聴覚教育相談員	横田 不二夫	112	セミナー	心理臨床相談員	★小林 芽以
13		担当課長	官嶋 俊哲	65		情報視聴覚教育相談員	飯沼 素	113		心理臨床相談員	★齊藤 友里加
14		担当課長	椎名 美由紀	66		インターネット問題相談員	掛井 孝明	114		心理臨床相談員	★白川部 あゆみ
15		指導主事	鈴木 正博	67		インターネット問題相談員	岡島 広幸	115		心理臨床相談員	★立川 茉奈
16		指導主事	石井 芳宏	68		インターネット問題相談員	岡島 広幸	116		学校巡回カウンセラー	★中井 恭子
17		指導主事	高橋 徹	69		インターネット問題相談員	高橋 邦夫	117		学校巡回カウンセラー	★中田 典華
18		指導主事	望月 隆	70		長期研究員	松本 芳弘	118		学校巡回カウンセラー	★今村 政彦
19		指導主事	鬼頭 洋司	71		室長	伊藤 琢也	119		学校巡回カウンセラー	★高橋 采花
20		指導主事	伊藤 悦子	72		指導主事	中村 めぐみ	120		学校巡回カウンセラー	★中村 美祐希
21		指導主事	川城 晴奈	73		指導主事	盛光 秀之	121		学校巡回カウンセラー	★小松 果歩
22		指導主事	伊藤 由佳子	74		指導主事	鹿島 理子	122		学校巡回カウンセラー	★原田 美穂
23		指導主事	松本 崇	75		指導主事	清水 寿紹	123		学校巡回カウンセラー	★町山 和乃
24		指導主事	岡部 啓子	76		指導主事	★中澤 英之	124		カウンセラー	S尾立 秋彦
25		指導主事	山中 美奈子	77		指導主事	★小原 日出子	125		カウンセラー	A永田 文子
26		指導主事	松浦 信明	78		指導主事	林 香織	126		ゆうゆう広場相談員	S阿部 厚
27		指導主事	齋藤 宗則	79		特別支援教育教育相談員	名取 光彦	127		ゆうゆう広場相談員	S高山 友美子
28		指導主事	門口 知弘	80		特別支援教育教育相談員	★小原 日出子	128		ゆうゆう広場相談員	S吉浜 慎一
29		指導主事	吉田 崇	81		就学相談専門員	★林 香織	129		ゆうゆう広場相談員	S高橋 正明
30		指導主事	野口 裕子	82		就学相談専門員	村越 淑美	130		ゆうゆう広場相談員	T舟本 正子
31	指導主事	長澤 秀行	83	就学相談専門員	★岸 幸枝	131	ゆうゆう広場相談員	T財田 信之			
32	教育情報サロン相談員	小松 良輔	84	心理臨床相談員	中島 美恵	132	ゆうゆう広場相談員	T荒井 伸一			
33	初任者研修相談員	高木 充	85	心理臨床相談員	中川 夕起江	133	ゆうゆう広場相談員	T和田 和子			
34	指導力向上特別研修指導員	秋本 和子	86	心理臨床相談員	谷田部 祥子	134	ゆうゆう広場相談員	A菱沼 彰			
35	指導力向上特別研修指導員	堀米 達也	87	心理臨床相談員	大森 ハルミ	135	ゆうゆう広場相談員	A白坂 雅妃子			
36	理科支援員等コーディネート	野口 美年子	88	心理臨床相談員	光本 恵	136	ゆうゆう広場相談員	A出雲路 清隆			
37	教師塾研修指導員	稲毛 伸幸	89	心理臨床相談員	高尾 健太	137	ゆうゆう広場相談員	A伊藤 聡志			
38	長期研究員	寺尾 春菜	90	心理臨床相談員	伊藤 麻美	138	ゆうゆう広場相談員	M日比谷 さゆみ			
39	長期研究員	葛岡 大	91	心理臨床相談員	武田 由衣	139	ゆうゆう広場相談員	M滝澤 真一			
40	長期研究員	秋山 高宏	92	心理臨床相談員	★塚原 三和子	140	ゆうゆう広場相談員	M樋口 安成			
41	長期研究員	角田 佳衣	93	心理臨床相談員	★福嶺 夏子	141	ゆうゆう広場相談員	M明瀬 忠義			
42	情報・視聴覚センター	担当部長	荒木 孝之	94	教育相談センター	室長	小林 格	142	教育相談	ゆうゆう広場相談員	N森岡 丈雄
43		室長	栃木 達也	95		指導主事	★谷戸 ゆきみ	143		ゆうゆう広場相談員	N佐川 恵子
44		担当課長	関口 大紀	96		指導主事	★奥田 愛	144		ゆうゆう広場相談員	N登尾 日出男
45		担当課長	添野 雅美	97		指導主事	★佐藤 桂奈	145		ゆうゆう広場相談員	N小泉 智則
46		課長補佐	野崎 智一	98		指導主事	雨宮 薫	146		ゆうゆう広場相談員	K庄司 律子
47		係長	佐藤 晃	99		指導主事	★栗原 秀明	147		ゆうゆう広場相談員	K小松 博樹
48		係長	茅根 真帆	100		指導主事	★山田 礼子	148		ゆうゆう広場相談員	K福地 誠
49		主任	長澤 久美	96		室長	★松崎 博晃	149		ゆうゆう広場相談員	K縄田 芳信
50		主任	鈴木 亮介	97		指導主事	★小林 正史	150		長期研究員	米山 由紀
51		事務職員	山森 大史	98		指導主事		151		カウンセラー-研究員	荒谷 健一

★=塚越相談室

<ゆうゆう広場> S=さいわい T=たま A=あさお M=みゆき N=なかはら K=たかつ

川崎市総合教育センター運営会議委員

氏名	現職	専門領域
館 勇 紀	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
小松 郁 夫	流通経済大学教授	学校経営
有元 典 文	横浜国立大学教授	学習環境
塚田 庸 子	横浜国立大学客員教授	理科教育
赤堀 侃 司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池田 延 行	国士舘大学教授	保健体育
三輪 ひろ美	神奈川県警察本部 少年相談・保護センター川崎方面課長補佐	児童生徒指導
小川 信 夫	玉川大学継続学習センター特任講師	人間理解
◎ 関戸 英 紀	横浜国立大学教授	特別支援教育
長井 典 子	川崎市立小学校長会会長 川崎市立小杉小学校長	小学校教育
○ 永野 直 樹	川崎市立中学校長会会長 川崎市立富士見中学校長	中学校教育
高井 健 次	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立橘高等学校長	高校教育
稲葉 武	川崎市立特別支援学校長会会長 川崎市立豊学校長	特別支援教育
嶋田 和 明	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

◎委員長 ○副委員長

専門員

氏名	現職	専門領域
工 藤 文 三	浦和大学教授	教育課程
森 本 信 也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
芳 川 玲 子	東海大学教授	教育相談
高 木 展 郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
永 井 徹	首都大学東京教授	教育心理学
原 克 彦	目白大学教授	情報モラル教育
霜 田 浩 信	群馬大学教授	特別支援教育
田 中 信 市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
野 中 陽 一	横浜国立大学教授	教育の情報化
小 林 宏 己	早稲田大学教授	カリキュラム開発
佐 見 由 紀 子	東京学芸大学准教授	健康教育
両 角 達 男	横浜国立大学教授	算数・数学科教育
太 田 洋	東京家政大学教授	英語教育

教育相談センター専門員

氏名	現職	専門領域
古 莊 純 一	青山学院大学教授	小児精神医学
鵜 養 美 昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

予 算

単位 千円

科 目	年 度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
総合教育センター費		1,976,294	1,273,214	1,322,488
教育調査研究費		21,897	22,905	23,275
教職員等研修費		19,395	16,481	19,976
教育相談費		96,016	79,307	77,515
適応教室運営費		75,044	75,643	68,449
教育情報ネットワーク事業費		569,712	485,730	554,082
GIGAスクール構想推進事業費		356,970	-	-
視聴覚教育費		1,686	1,700	1,650
平和教育推進費		619	659	770
外国語指導助手配置事業費		478,357	478,307	423,980
海外帰国子女等関係費		-	-	55,154
理科支援員等配置事業		16,294	17,228	16,976
カリキュラムセンター事業費		327	429	438
総合教育センター運営管理費		331,738	84,848	69,781
教育会館運営管理費		8,239	9,977	10,442
総合教育センター費外		2,303,156	1,492,129	1,451,725
学校教育活動支援事業費		385	336	353
児童生徒・指導相談業務費		103,382	98,540	99,244
教育課程・学習指導に関する事務		32,601	28,403	28,428
情報化教育推進事業費		2,166,766	1,364,828	1,321,581
特別支援教育推進事業費		-	-	2,090
人権教育推進事業費		22	22	29

川崎市総合教育センター 令和3年度 研究体系図

教育基本法 学校教育法
中央教育審議会 答申
小・中・特別支援学校新学習指導要領
高等学校新学習指導要領
「育成を目指す資質・能力」の明確化
第3期教育基本計画

かわさき教育プラン
基本理念
夢や希望を抱いて
生きがいのある人生を送るための礎を築く
基本目標キーワード
「自主・自立」「共生・協働」

川崎市総合教育センターの研究

実践研究

令和3年度 実践研究主題

自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力

■各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究

■児童生徒の発達の支援に係る研究

◎長期研究員と研究員による研究（7）

- 郷土資料編集：児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究
- 理科：新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業
- 音楽科：児童生徒が音楽科の「知識」を習得・活用するための指導の在り方
- 高校教育：思考の視点を取り入れた授業と評価の研究
- 情報活用能力育成：情報活用チェックリストを用いた学校全体での情報活用能力の育成の取組
- 特別支援教育：重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス
- 学校教育相談：自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究

◎指導主事と研究員による研究（6）

- 国語科：新たな視点を得ながら、更新し続ける「読むこと」の単元づくり
- 算数・数学科：個に応じた指導の充実に向けた振り返りの在り方
- 体育・保健体育科：一人一人が自ら考え、「よりよくなる」を目指す体育学習
- 図画工作・美術科：生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成
- 外国語科：外国語科における小中連携の在り方に関する研究
- 健康教育：子どもたちが実感をもって学ぶことができる歯の健康教育

◎カウンセラー研究員による研究：コロナ禍における日常的な教育相談活動の実践

■市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究

共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
 - 研究大会での研究報告（令和3年度は講演のみ）
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎かわさき GIGA スクール構想に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
 - カリキュラムセンター
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～GIGA 端末の可能性を考える視点から～
 - 情報・視聴覚センター
 - ・かわさき GIGA スクール構想ステップ2に向けた研究
 - 教育相談センター
 - ・不登校児童生徒の抱える背景と支援の実態についての調査・基礎研究
 - 特別支援教育センター
 - ・児童生徒の困難さに応じた GIGA 端末の活用に向けた研究

1 調査研究

(1) 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上、児童生徒の発達の支援に係る研究等を実践研究の中心に据えて取り組んでいる（別紙「研究体系図」参照）。

◇実践研究

■各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究

■児童生徒の発達の支援に係る研究

○長期研究員と研究員による研究会議

郷土資料編集、理科、音楽科、高校教育、情報活用能力育成、特別支援教育、学校教育相談

○指導主事と研究員による研究会議

国語科、算数・数学科、外国語教育、図画工作・美術科、体育・保健体育科、健康教育科

○カウンセラー研究員による研究

■市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究

旭町小学校 川崎高等学校附属中学校

◇調査・基礎研究

■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

○指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

◇施策研究

■教育施策等に係る研究

○かわさき GIGA スクール構想に係る研究

○習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究

○全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

◇共同研究

■各研究所等との共同研究

○指定都市教育研究所連盟

○神奈川県教育研究所連盟

○関東地区教育研究所連盟

○全国教育研究所連盟

○都道府県指定都市教育センター所長協議会

◇実践研究

長期研究員・研究員による研究会議

児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる
副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究
—問題解決的な学習に、より一層対応した副読本「かわさき」をめざして—

(郷土資料編集研究会議)

本研究会議では、児童が主体的に活用できる副読本「かわさき」を作成するために、これからの時代に求められる副読本を資質・能力の面から整理をし、作成を進め、検証を行った。ページ試案を作成する際には、吹き出しの効果的な活用、副読本と ICT を関連させた活用に重点を置き、問題解決的な学習過程に対応する内容になるよう工夫をした。検証を通して、児童が主体的に活用するためには、発達段階に合わせて資料を精選したり、ページ構成を工夫したりすることが有効であることが明らかになった。また、教師用の指導資料を作成する必要があることもわかった。

<スタッフ> 寺尾 春菜 (長期研究員) 川田 照子 (研究員) 岩瀬 美保子 (研究員)
清野 貴史 (研究員)

新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業
—自律的に問題解決・探究する子どもの育成を目指して—

(理科研究会議)

本研究では、新しい時代を生き抜く資質・能力の育成につながる理科授業を志向して研究を行った。子どもが自ら問題解決・探究することに課題が見られ、日常生活との関連の充実と探究の過程の重視に着目した授業デザインから主題に迫る構想をした。手立てとして、日常生活との関連、予想をもとにした仮説の設定、対話による学びの調整、学び方の振り返りを措定した。その結果、自然事象に進んで関わり、自ら探究を進めようとする意識の高まりが見られ、自律的に問題解決・探究する子どもの育成に有効であることが明らかになり、主題につながる一歩となった。

<スタッフ> 葛岡 大 (長期研究員) 有泉 翔太 (研究員) 宮野 利隆 (研究員)
窪田 和久 (研究員) 澤田 大明 (研究員)

児童生徒が音楽科の「知識」を習得・活用するための指導の在り方
—音楽や他者との関わりから、思考・判断し、表現する活動を通して—

(音楽科研究会議)

本研究では、音楽科の「知識」を習得・活用するためには、児童生徒が音楽科の学習を通して「曲想と音楽の構造(や背景)などとの関わりについて理解する」ことが最も大切なことと考え、その指導の在り方について研究を進めた。児童生徒が、音楽科の学習過程で「知識」を習得・活用する上で大切にしたい手立てを「音楽から考えたり、理解したりする場の設定」「他者との関わりを通して考えたり、理解したりする場の設定」として、検証授業を行った。

研究を通して、児童生徒が「知識」を習得・活用するためには、十分に思考する場を意図的に設定することが必要であることが分かった。

<スタッフ> 秋山 高宏 (長期研究員) 渡邊 希 (研究員) 小島 光博 (研究員)
角 信之 (研究員)

思考の視点を取り入れた授業と評価の研究
—自らの考えを表出し、根拠を示して説明できる生徒の育成—

(高校教育研究会議)

本研究では、育成をめざす生徒の姿を「課題に対して自ら積極的に思考を深めながら次の問いに生かす姿」と考え、その育成のために、授業において教師がどのような手立てを用いればよいかを検討した。授業の構成として、生徒が課題に対して自ら向き合い、どこから考えていけばよいかを考え続けることや、根拠を示して自分の考えを説明できるようにすることを目指した。生徒が学習の過程でどのような思考の状態にあるかを、歯車を回す仕組みで表し思考の視点を活用した授業を行うことで、その歯車が回り自ら考え続ける生徒の姿につながることを確認できた。

<スタッフ> 角田 佳衣 (長期研究員) 荒井 貴文 (研究員) 入澤 正人 (研究員)
津田賀 裕美 (研究員) 山口 小百合 (研究員)

情報活用チェックリストを用いた
学校全体での情報活用能力の育成の取組
—GIGAスクール構想の実現に向けた抽出校の事例研究—

(情報活用能力育成研究会議)

本研究では、市立学校4校におけるGIGAスクール構想の推進を比較、分析する事例研究に取り組み、チェックリストを活用して情報活用能力を組織的に育成するための具体的な方法について検討した。その結果、チェックリストの活用が学校全体で情報活用能力を育成するための目標設定や指導計画立案の有効な手立てとなり、児童生徒の情報活用能力に関する意識の向上につながることを確認された。また、抽出校の取組から明らかになったチェックリストの具体的な活用法を「チェックリストを活用した推進計画シート作成の手順」と「チェックリストを活用した学習指導の手順」として提案した。

<スタッフ> 福田 有宇 (長期研究員) 齊藤 亮介 (研究員) 佐藤 譲 (研究員)
大野 由希子 (研究員) 岡田 智弘 (研究員)

重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス
—言葉への関心を高める国語科の実践を通して—

(特別支援教育研究会議)

本研究では、重度知的障害のある児童生徒の教科指導について研究を進めた。具体的な目標設定と評価、授業改善を行うことで児童生徒の資質・能力を伸ばさせる授業を行うことができると仮定し、その一実践として言葉による見方・考え方を働かせる国語科の授業づくりに取り組んだ。検証した2事例では、児童生徒の学習状況の評価から、目標を具体化し観点別評価をすることで、児童生徒の資質・能力を高める授業づくりを行うことができることが分かった。また、目標設定と評価に着目することで、授業づくりのプロセスのPDCAサイクルが機能し、授業づくりのプロセス全体が改善されることが分かった。

<スタッフ> 雨宮 薫 (長期研究員) 厚地 沙由子 (研究員) 小栗 愛 (研究員)
野村 彩希 (研究員) 佐藤 巧麻 (研究員)

自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究
—本市の教育活動を生かした不登校未然防止の取組—

(学校教育相談研究会議)

本研究では、不登校児童生徒の背景に不安・緊張が関係しているということから、問題と向き合い不安を感じたときに本人が処理して回復していくスキルをもつことが重要であると考えた。そこで、ストレスによって落ち込んだ状態から回復しようとする課程であるレジリエンスに着目した。レジリエンスがはたらく要因には「自己理解」「他者心理の理解」「問題解決志向」があり、かわさき共生*共育プログラムで育まれる力と類似していることから、そのプログラムを中心にレジリエンスの要因を高める取組を行った。「自己理解」「他者心理の理解」「問題解決志向」の3つ視点を基に子どもの実態に合わせた授業を行うことで、生徒のレジリエンスの高まりが見られた。

<スタッフ> 米山 由紀(長期研究員) 佐藤 仁美(研究員) 塚田 雄介(研究員)
武蔵 達(研究員)

◇カウンセラー研究員による研究

コロナ禍における日常的な教育相談活動の実践
—カウンセリングマインドを生かした学年の取り組み—

本研究では、中学校入学時よりコロナ禍に直面し、学校行事や人との関わりに制限が生じた中で、不自由を強いられてきた学年を対象とし、問題行動や不登校を未然に防ぐための手だてについて研究を進めた。その中で、教師がカウンセリングマインド持って、日常的な教育相談活動を実施することで、生徒の社会性やコミュニケーション能力の向上を目指そうと考えた。生徒の変容については、かわさき共生*共育プログラム効果測定や日々の見守り活動等を通して分析した。数値上は好転しなかったものの教師側の日常的な教育相談活動の意識が高まったことと個に応じた支援方法を共有、実践できたことは大きな成果となった。

<スタッフ> 荒谷 健一 (カウンセラー研究員)

◇指導主事・研究員による研究会議

新たな視点を得ながら、更新し続ける「読むこと」の単元づくり
—一人一人の読む姿を捉えて—

(国語科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、「読むこと」の領域において、児童生徒が新しい視点を他者から得ながら試行錯誤し、絶えず理解や思考等を更新しながら単元目標の実現に向かうことを目指し、単元構成や具体的な手立てを研究した。「①子どもが単元で身に付ける資質・能力を意識する」「②導入を工夫する」「③『大きな問い』(本研究会議では『読む』目的ができるよう設定する問いや、何度も教材を読み返し追究する課題)を設定する」「④試行錯誤し、更新する」の視点を取り入れた単元により、一人で読んで考える活動と友達と共有する活動を繰り返す中で教材に立ち返り、考えを更新する姿が見られた。

<スタッフ> 伊藤 悦子(指導主事) 篠崎 聡美(研究員) 西野 裕子(研究員)
小濱 康夫(研究員) 向山あかね(研究員)

個に応じた指導の充実にに向けた振り返りの在り方
—スタディ・ログ（学習履歴）のデータを利活用するために—

（算数・数学科指導主事と
研究員による研究会議）

本研究では、従前の振り返り活動を生かした個に応じた指導に加え、実践授業を通してスタディ・ログ（学習履歴）のデータを利活用する視点から、個に応じた指導における振り返り活動の在り方を研究した。事前のアンケートや確認テスト、そして単元のまとまりとしての振り返りを単元計画の中に位置づけた。GIGA端末よりデータに残すことで、それを基に、より児童生徒を客観的に俯瞰的に見取ることができた。また、児童生徒のメタ認知と教員の見取りのずれも明らかになり、個に応じた手立てを講じることで、児童生徒の変容も見取ることができ、その活用の有効性がみられた。

<スタッフ> 松本 崇（指導主事） 佐藤 大智（研究員） 足立 智秀（研究員）
加藤 誠二（研究員） 前田 莉奈（研究員）

外国語科における小中連携の在り方に関する研究

（外国語科指導主事と
研究員による研究会議）

小学校で外国語が教科化となり、小中一貫した外国語教育が求められている中で、小中連携が外国語科の課題となっている。そこで、本研究会議では、小中連携推進の具体的な手立てとして、接続期の指導、言語活動、CAN-DO リストの3点に着目して研究を進めた。接続期の指導については、中学校1年で小学校の言語材料を活用した授業が有効なこと等が明らかになった。言語活動についても、小中連携を推進する上での言語活動の有効性が明らかになった。また、校種間のつながりを教員が意識できるように、小学校3年から中学校3年の学習到達目標を示したCAN-DOリストスタンダードを作成した。

<スタッフ> 鬼頭 洋司（指導主事） 齋藤 宗則（指導主事） 豊竹 美喜子（研究員）
養口 穂高（研究員） 佐藤 良平（研究員） 梅澤 有美子（研究員）

生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成
—広がりのある問いを設定した活動を通して—

（図画工作・美術科指導主事
と研究員による研究会議）

本研究会議では、造形的な視点を意識しながら多様な表現や鑑賞を生み出せるような「発問」を「広がりのある問い」と設定し、表現に自信をもったり達成感を感じたりするなどの自分の表現や鑑賞を肯定的にとらえることを「自分を高める」と設定して、生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成を目指した。「広がりのある問い」を適切に設定することで、多様な表現と鑑賞活動が生まれ、生活や社会と豊かに関わる姿が見られた。また、表現と鑑賞の過程で教師が意識的に価値づけることで、自分の表現などを肯定的に捉えたり、達成感を得られたりして、「自分を高めている」姿が見られたことから、「広がりのある問い」を適切に設定していくことの有効性が見られた。

<スタッフ> 長澤 秀行（指導主事） 田口 雅之（研究員） 石川 裕貴（研究員）
湯瀬 明意（研究員） 安田 薫（研究員）

一人一人が自ら考え、「よりよくできる」を目指す体育学習
ー 試行錯誤を通して、主体的に学ぶ姿ー

(体育・保健体育科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、児童生徒が「何を(課題)」「どうすれば(課題解決の方法)」といった思考力、判断力、表現力等を働かせながら、自ら考えたり、他者と協働したりしながら課題を解決する姿に着目した授業づくりについて研究した。教師が教え込む授業ではなく、子どもたちが動きのポイントに気付いたり、他者の動きに着目したりするための発問や、種目の特性に応じた動き方について思考する場面を必然的に創出させる学習課題の提示などによって、児童生徒が仲間と協働的に意見を交わし、試行錯誤しながら主体的に学ぶ姿を引き出すことができた。

<スタッフ> 門口 知弘(指導主事) 坂本 智章(研究員) 磯永 真司(研究員)
大山 裕一(研究員) 関 正紀(研究員)

子どもたちが実感をもって学ぶことができる歯の健康教育
ー 新しい生活様式合わせた指導方法の工夫ー

(健康教育指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、コロナ禍における子どもたちの健康課題から歯の健康に視点をあて、GIGA 端末を活用し、子どもたちが実感をもって学ぶことができる新しい生活様式に合わせた指導方法について研究した。学級担任と養護教諭が特別活動(学級活動)の授業を実践した。小学校では「早く家に帰って歯を磨きたい」という発言や、マスクの上から一生懸命歯磨きの練習をする姿に、自ら実践しようとする意欲的な姿が見られた。また、中学校では調べ学習に真剣に取り組み、積極的に意見を出し合う姿から、歯の健康に対する意識の高まりが感じられた。

<スタッフ> 野口 裕子(指導主事) 前田 愛(研究員) 五味 寿子(研究員)
澁 夕未代(研究員) 須藤 郁代(研究員)

◇調査・基礎研究 (指導主事研究)

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
～GIGA端末の可能性を考える視点から～

(カリキュラムセンター
指導主事研究)

今年度から始まった GIGA スクール構想により、今後、授業が劇的に変わることが考えられる。また、かわさき GIGA スクール構想では、次年度は STEP 2 「主体的・対話的で深い学びにつながる」GIGA 端末活用の実現を目指している。そこで、本研究では、GIGA 端末の活用により、「10 年後」の教室ではどのような授業が行われ、子どもはどのように学んでいるのかを想起しながら、自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成を進めるための礎となる調査とその協議をした。その結果、GIGA 端末を活用しながら、これまで本市が取り組んできた「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」である「指導の個別化」と、「協働的な学び」を一体的に充実させて、「主体的・対話的で深い学び」に結びつける周辺の授業デザインが大切であることが見えた。

<スタッフ> 伊藤 悦子 鈴木 正博 松本 崇 吉田 崇 岡部 啓子
高橋 徹 鬼頭 洋司 齋藤 宗則 川城 晴奈 望月 隆
野口 裕子 石井 芳宏 伊藤 由佳子 長澤 秀行 門口 知弘
山中 美奈子 松浦 信明

(2) 研究報告

①川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。令和3年度は、Google クラウド上に報告内容を動画配信し、それをG I G A端末で視聴する「報告会期間（令和4年1月19日～2月10日）」と、報告内容について研究員と意見を交わす「報告分科会（Google Meet形式 1月26日）」の2段階方式で開催した。長期研究員、指導主事と研究員による研究の13分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行い、報告会参加者は773回、報告分科会参加者は366名と、各分科会で熱気あふれる研究報告会となった。昨年度に引き続き、「いつでも、何度でも」報告内容を視聴することができ、複数の研究報告も視聴可能となったことで、好評を得た。

②その他の研究発表

- ・「令和3年度神奈川県教育研究所連盟 第68回 教育研究発表大会」における発表は中止

(3) その他の研究事業

◇研究冊子等の作成

川崎市総合教育センター研究紀要 第35号（令和3年度版）

令和3年度に調査研究した内容の掲載

【別紙1】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

【長期研究員（◎）と研究員（○）による研究】

研究会議名	研究主題	発表者	講師
郷土資料編集 研究会議	児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究 —問題解決的な学習に、より一層対応した副読本「かわさき」をめざして—	◎寺尾 春菜 ○川田 照子 ○岩瀬美保子 ○清野 貴史	川崎市立小学校 元校長 石川 健次
理科 研究会議	新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業 —自律的に問題解決・探究する子どもの育成を目指して—	◎葛岡 大 ○有泉 翔太 ○宮野 利隆 ○窪田 和久 ○澤田 大明	横浜国立大学 名誉教授 森本 信也
音楽科 研究会議	児童生徒が音楽科の「知識」を習得・活用するための指導の在り方 —音楽や他者との関わりから、思考・判断し、表現する活動を通して—	◎秋山高宏 ○渡邊 希 ○小島光博 ○角 信之	前文部科学省教科調査官 国立音楽大学 教授 津田 正之
高校教育 研究会議	思考の視点を取り入れた授業と評価の研究 —自らの考えを表出し、根拠を示して説明できる生徒の育成—	◎角田 佳衣 ○荒井 貴文 ○入澤 正人 ○津田賀裕美 ○山口小百合	浦和大学こども学部 特任教授 工藤 文三
情報活用能力 育成研究会議	情報活用チェックリストを用いた学校全体での情報活用能力の育成の取組 —GIGA スクール構想の実現に向けた抽出校の事例研究—	◎福田 有宇 ○齊藤 亮介 ○佐藤 譲 ○大野由希子 ○岡田 智弘	横浜国立大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授 野中 陽一
特別支援教育 研究会議	重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス —言葉への関心を高める国語科の実践を通して—	◎雨宮 薫 ○厚地沙由子 ○小栗 愛 ○野村 彩希 ○佐藤 巧麻	国立特別支援教育 総合研究所 研修事業部 上席総括研究員 吉川 知夫
学校教育相談 研究会議	自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究 —本市の教育活動を生かした不登校未然防止の取組—	◎米山 由紀 ○佐藤 仁美 ○塚田 雄介 ○武藏 達	東海大学文化社会学部 心理・社会学科 教授 芳川 玲子

【指導主事（◎）と研究員（○）による研究】

研究会議名	研究主題	発表者
国語科研究会議	新たな視点を得ながら、更新し続ける「読むこと」の単元づくり — 一人一人の読む姿を捉えて —	◎伊藤 悦子 ○篠崎 聡美 ○西野 裕子 ○小濱 康夫 ○向山あかね
算数・数学科研究会議	個に応じた指導の充実に向けた振り返りの在り方 — スタディ・ログ（学習履歴）のデータを利活用するために —	◎松本 崇 ○足立 智秀 ○佐藤 大智 ○加藤 誠二 ○前田 莉菜
体育・保健体育科研究会議	一人一人が自ら考え、「よりよくできる」を目指す体育学習 — 試行錯誤を通して、主体的に学ぶ姿 —	◎門口 知弘 ○磯永 真司 ○坂本 智章 ○大山 裕一 ○関 正紀
図工・美術科研究会議	生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成 — 広がりのある問いを設定した活動を通して —	◎長澤 秀行 ○田口 雅之 ○石川 裕貴 ○湯瀬 明意 ○安田 薫
外国語科研究会議	外国語科における小中連携の在り方に関する研究	◎鬼頭 洋司 ◎齋藤 宗則 ○豊竹 美喜子 ○佐藤 良平 ○蓑口 穂高 ○梅澤 有美子
健康教育研究会議	子どもたちが実感をもって学ぶことができる歯の健康教育 — 新しい生活様式に合わせた指導方法の工夫 —	◎野口 裕子 ○前田 愛 ○五味 寿子 ○渕 夕未代 ○須藤 郁代

【横浜国大 教職大学院派遣教諭による報告】

研究会議名	研究主題	発表者	講師
横浜国立大学 教職大学院派遣 教諭による研究 報告	生徒の「自己効力感」が高まることを期待した授業実践 — 振り返りに着目して —	令和2年度横浜国立大学 教職大学院 派遣教諭 宮崎中学校教諭 佐藤 拓也	横浜国立大学大学院 教育学研究科高度教職 実践専攻 (教職大学院) 教授 横浜国立大学教育学部 附属横浜小学校長 小松 典子
	ミドルリーダーのメンターとしての力量形成 — 経験学習サイクルを通して —	令和3年度横浜国立大学 教職大学院 派遣教諭 久地小学校教諭 高橋 友也	

2 教育関係教職員研修

(1) 必修研修

集合型研修＝★ 双方向型オンライン研修＝◆ 単方向型オンライン研修＝◇ 単方向型研修＝●
中止だが資料の提供＝△ 中止＝▲

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
801	新規採用教員研修	高橋	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修● (2) 情報教育、情報機器の活用法、情報モラル・指導主事●(総合教育センター) (3) 児童・生徒指導、学級経営について・芹澤 成司●(総合教育センター元所長) (4) 安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社◆ (5) 学習指導についての講義演習・指導主事(総合教育センター)◆ (6) 学習指導 理科指導における講義演習[小]教科別指導[中・高・特]・指導主事(総合教育センター)●◆ (7)(8) 人権 板橋美由紀(教育政策室) キャリア 安斎陽子(教育政策室)★ (9) 特別支援教育の現状と理解について・指導主事(総合教育センター)◆ (10) 教育相談について (総合教育センター)◆ (11) 児童生徒指導、学級経営について・指導主事(各区教育担当)★ (12)(13) 授業力向上 班別研修 指導主事(総合教育センター)★ (14) 班別授業 (書面開催)● (15) 講話 研修報告 小田嶋 満(教育長)★ (16)～(19)[小・特]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち3回の授業参観と研究協議[中・高]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議・指導主事(総合教育センター)◆</p>	新規採用教員	勤務校外研修 年間19回 4/8～1/27	4,161
802	新規採用養護教員研修	野口	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (2) 健康教育の実践、学校での授業研究・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (3) 中学校における保健室経営と健康教育の実践・工藤晶子(柿生中学校)★ (4) 健康教育とGIGA端末の活用・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (5) 小学校における保健室経営と健康教育の実践・八木奈穂美(東生田小学校)★ (6) 保健室経営案と学校保健計画の立案、養護教諭の活動の評価・野口裕子(総合教育センター指導主事)★</p>	新規養護教諭	7/2 10/14 11/11 12/2 12/6 12/17	60
803	新規採用学校栄養職員研修	川城	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 学校給食の概要とサービス・給食管理システムについて・杉山綾子(健康給食推進室)★ (2) 給食試食会の進め方・杉山綾子(健康給食推進室)▲ (3) 食に関する指導Ⅰ(給食時間における指導等)・杉山綾子(健康給食推進室)・高橋徹(総合教育センター指導主事)・川城晴奈(総合教育センターカリキュラムセンター指導主事)★ (4) 食に関する指導Ⅱ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (5) 食に関する指導Ⅲ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (6) 食に関する指導Ⅳ(授業の実践・指導講評)・杉山綾子(健康給食推進室)・高橋徹(総合教育センター指導主事)★ ※801新規採用教員研修の14回[1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 16]も受講</p>	新規学校栄養職員	4/7 6/23 8/20 8/27 11/16	18
804	2年目教員研修	鬼頭	<p>■ 授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンス・事前資料のポイントの説明：道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動：指導主事(総合教育センター)・班別協議(1年目、2年目前半を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班テーマの設定と授業づくり)◆ (2) 班別授業研究→班別研修(指導案を基に協議)◆</p>	2年目教員(全校種)	8/23 A1/31 B2/1	576
805	3年目教員研修	望月	<p>■ 教科の目標と内容の理解を深めるとともに、自己の課題を一層明確にして授業改善を図り授業力を高めるとともに、教員として学び続ける態度を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンスと班別協議(2年目までの成果と課題、班で共有の視点の設定)★ (2) 班別授業研究(研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定)◆</p>	3年目(全校種)教職員	A6/1 B6/8 A1/14 B1/17	548
806	2校目異動者研修	鈴木	<p>■ 新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。</p> <p>(1) 勤務規律(講師：教職員課 担当課長)・メンタルヘルス(給与厚生課)・研修ガイダンス・人権尊重教育研修(講師：人権・共生教育 担当課長)● (2) 学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う ～OJTを中心として、管理職や所属学年等職員との協議を通して、これまでの自分を振り返り、取り組む課題を明確にする～★ (3) 数年先を見通した取組を考える ～OJTを中心として協議し、数年先を見通した課題を考え、実践計画を立てる～★</p>	2校目異動者(全校種)教職員	6/1 7/19 12/23	738

807	中堅教諭等資質向上研修	長澤	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1) 閉講式・研修ガイドダンス・実践力を高める研修・教職員服務規律研修・メンタルヘルス研修◇</p> <p>(2) 授業研究①：指導主事◆</p> <p>(3) 課題研究①：指導主事◆</p> <p>(4) キャリア在り方生き方教育研修・特別支援教育に関する研修・OJTに関する研修・人権尊重教育に関する研修・児童生徒指導研修◇</p> <p>(5) センター希望研修共催研修の受講：指導主事等(総合教育センター等)◆◇◇△</p> <p>(6) (7) 異校種交流研修：各学校(各学校)★</p> <p>(8) 授業研究②：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★</p> <p>(9) 課題研究②：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★</p> <p>(10) 閉講式、優秀教員講演◇</p>	中堅 (全校種)	5/24～6/11 7/26～8/31 8/3 1/5 1/5～1/31	2,070
808	15年経験者研修	山中	<p>■ 探究力をもって学び続け、実践的指導力の向上を図り、校内における中堅教員としての資質を養う。また、人権尊重教育・多文化共生教育についても研修を行う。</p> <p>(1) 服務規律研修・市職員(教職員人事課)◇ 「今、ミドルリーダーに求められるものとは?」・白井達夫(横浜国立大学)◇</p> <p>(2) 「人権尊重教育・多文化共生教育」について・市職員(教育政策室) (総合教育センター)★ 小人教グループに分かれて、課題レポートについてのグループ協議 (総合教育センター)★</p>	全校種 教職員	4/19～5/21 12/21	305
809	新任総括教諭研修	門口	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る</p> <p>(1) 総括教諭の位置づけ(教職員人事課)、総括教諭のメンタルヘルス(給与厚生課)◇ これからの総括教諭に期待すること 堀井英之(南菅小学校長)、相沢宏明(稲田中学校長)★</p> <p>(2) 講演「企業における人材育成」川村智弘(ホテルKSP支配人)、総括教諭として実践したこと(課題と成果)★</p>	新任総括 教諭	4/19～22 4/23 12/16	143
810	新任教頭研修	吉田	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1) 講演「新任教頭に期待する」・市職員(総合教育センター)／実務研修「人権・多文化共生教育の推進」・市職員(教育政策室)／実務研修「休暇制度について」・市職員(教職員人事課)／実務研修「勤務時間制度」・市職員(教職員企画課)／実務研修「職場におけるメンタルヘルスケア」・市職員(給与厚生課)◆</p> <p>(2) 実務研修「特別支援教育サポート事業」・市職員(指導課)／実務研修「教育活動サポーター事業」・市職員(学校教育部)／実務研修「学校のICT機器について、情報セキュリティ及び情報モラル教育、ID管理システム、かわさきGIGAスクール構想、GIGAアカウントと端末管理、かわさきGIGAスクール構想の校内推進について」・市職員(総合教育センター)★</p> <p>(3) グループ討議「分散会による班別討議」・市立学校長★</p>	全校種 教頭	4/20 4/28 7/14	117
811	教頭研修	石井	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1) オンラインメンタルヘルス：(給与厚生課)、かわさきGIGAスクール機器管理(情報・視聴覚センター)「GIGAスクール構想とこれからの学び」佐藤昌宏(デジタルハリウッド大学)◆</p> <p>(2) 書面開催「法規演習」：市職員(教育委員会教職員課)●</p> <p>(3) 分散会②「課題研修」：市立学校長(市立学校)★</p> <p>(4) オンライン開催：「学校安全の充実の取組」(健康教育課学校安全担当)、「人権尊重教育を進めるためには」(教育政策室人権・多文化共生教育)、「チーム学校時代の教育相談」芳川玲子(東海大学)◆</p>	教頭 副校長	6/8 8/2 11/22 1/6	721
812	新任校長研修	門口	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1) 講話 総合教育センター所長 講演「学校経営と校長の役割」井上総一郎校長先生(元校長会長) 「職場におけるメンタルヘルス」市職員(給与厚生課)◆</p> <p>(2) 実務研修「教職員の人事」他・市職員(教職員人事課)★</p> <p>(3) 講話「学校事故と法的責任」・市職員(学校法律相談担当弁護士(総務部庶務課)) 講演「人権オンブズパーソン制度について」・川崎市代表人権オンブズパーソン★</p> <p>(4) 「GIGAスクール構想の推進と、情報管理・著作権」(総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事) 班別討議：「学校運営の現状と課題」・市職員(学校教育部)★</p>	新任校 長	4/16 4/26 7/28	117
813	校長研修	岡部	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 集合研修★ 講演「学校としてGIGAスクール構想をどうすすめるか」 高橋純(東京学芸大学 准教授) 講話「教育長講話」</p> <p>(2) 双方向型オンライン・動画配信研修◆◇ 講演「不登校解決のための手立てを探る」 佐藤敬子(別府大学 特任教授) 講話「メンタルヘルスについて」給与厚生課精神保健相談員</p> <p>(3) 双方向型オンライン・動画配信研修◆◇ 講演「学校の組織を活性化する人材育成」 嶋崎政男(神田外語大学 客員教授) 講話「人権尊重教育の推進について」(人権・共生教育担当担当課長)</p>	全校種 校長	6/28 8/26 1/18	522
814	小学校夏季体育実技講習会	門口	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 器械運動(マット運動)、ゲーム①(ゴール型ハンドボール)、保健(3年生健康な生活)、表現運動(表現)、陸上運動(ハードル走)、器械運動(鉄棒運動)★</p> <p>(2) 体づくり運動(多様な動き、体の動きを高める運動)、陸上運動(リレー)、保健(5年けがの防止)ボール運動(ネット型ブレールボール)、陸上運動(走り幅跳び)</p> <p>講師：市立小学校教員★</p>	小学校 教諭・ 新規採 用5年 未満教 諭	7/29 7/30	314
815	中学校夏季体育実技研修会	門口	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 陸上競技、器械運動、球技ベースボール型(ソフトボール)、ダンス △</p> <p>(2) 球技ネット型、球技ゴール型(ハンドボール)、武道(柔道)、体づくり運動</p> <p>講師：市立中学校教員 △</p>	中学校 保健体 育科教 員	中止	198

816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	門口	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る。</p> <p>オリエンテーション 講義①「水泳学習の系統と安全指導(水遊び、パプリング、ポビング、宝探し、水の中を移動する運動遊び)」講義②「低学年の指導法、補助の仕方」 実技①「中学年の指導法(浮く運動:たるま浮き、背浮き、伏し浮き)」 実技②「中学年の指導法(浮いて進む運動:水中ロケット、け伸び、ビート板を使つてのバタ足、面かぶりクロール)」 実技③「高学年の指導法(クロール、平泳ぎ)」 講師:市立小学校教員★</p>	小学校採用5年未満教員	7/26 7/27	295
817	小学校音楽科実技研修	伊藤由	<p>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</p> <p>(1)歌唱実技及び指導法◇ (2)器楽実技及び指導法◇</p>	小学校新規採用5年未満教員	7/21～ 動画配信	299
818	中学校数学科初任者教員指導力向上研修	松本	<p>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</p> <p>(1)数学科の授業づくりの基本・二瓶哲哉(附属中・教諭)★ (2)指導と評価について・松本崇(総合教育センター指導主事)★ (3)授業改善のために意識すること 松本崇(総合教育センター指導主事)、宮嶋俊哲(総合教育センター担当課長)★ (4)学習指導要領・授業づくりの基本・地曳善敬(元市内中学校教諭・星槎学園高校教諭)★ (5)小学校算数科授業づくり・岡田綾子(お茶の水女子大学附属小学校教諭)★ (6)中学校数学科授業づくり・伊吹竜二(学力調査官・教育課程調査官(国立教育政策研究所教育課程センター))★ (7)授業研指導案検討・松本崇(総合教育センター指導主事)・3日目数学科教員★</p>	中学校数学科初任者	7/26 AM・PM 7/27 AM・PM 12/23 PM	21
819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	吉田	<p>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。</p> <p>(1)授業力向上①総合教育センター指導主事★ (2)授業力向上②総合教育センター指導主事★ (3)授業力向上③総合教育センター指導主事★ (4)観察実験研修「多摩川がさがさ探検」多摩川塾塾長 中本 賢氏★ (5)臨地研修「川崎の先端科学技術」★ 講演「科学への興味を高めるために」KISTEC光触媒グループ主任研究員 落合剛氏 見学「光触媒ミュージアム」★ (6)臨地研修★ 実技研修「おもしろ玉手箱、有孔虫観察等」かわさき宙と緑の科学館 指導主事、職員、アトム工房/講演「知好楽で行こう!よく勉強して教科が好きになり、楽しく教えていこう」東京理科大学名誉教授 藤嶋昭 氏</p>	中学校初任者理科	7/27 7/28 11/4 12/21	8
820	新任教務主任研修	齋藤	<p>■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。</p> <p>(1)説明「公簿類の取扱」連絡・望月隆(総合教育センター指導主事)◇ 講話「新任教務主任への期待」・(川崎市立中学校長)◆ 演習「新任教務主任としての現状と課題」◆ (2)演習「教育法規の運用と解釈」・(教育委員会教職員人事課担当課長)◇ 講話と質疑応答「教務主任の実務」(川崎市立小・中学校教務主任)★ (3)説明「校務支援システム・学校HP・情報モラル」 金子裕輝(総合教育センター指導主事)◇ (4)グループ演習「学校組織マネジメント」★ 小学校:白井達夫(横浜国立大学非常勤講師) 中学校・高等学校・特別支援学校:前田博明(認定NPO法人教育活動総合サポートセンター理事長)</p>	新任教務主任	4/30(1) 5/31(2) 7/2(3) 9/3(4)	150
821	養護教員研修	野口	<p>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力を高める。</p> <p>(1)「心肺蘇生法実技」・木鳥淨文(日本赤十字社神奈川県支部)★ (地区ごとに2回に分けて実施) (2)「ゲーム依存について」・北湯口孝(久里浜医療センター心理療法士)★</p>	養護教諭	2022/5/18 5/28 8/25	416
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	野口	<p>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</p> <p>「学校プールの水質管理について」・福嶋仁(川崎市立学校薬剤師) 「学校プール安全管理上の留意事項について」門口知弘(総合教育センター指導主事) 心肺蘇生法・木鳥淨文(日本赤十字社神奈川県支部)★</p>	全校種教職員	5/10	150
823	中学校外国語教育指導力向上研修	鬼頭	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。</p> <p>(1)学習評価に関する評価◆ (2)授業研究会★</p>	中学校英語科教員	7/27 11/26	91
824	高等学校外国語教育指導力向上研修	鬼頭	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。</p> <p>(1)学習評価に関する評価★ (2)授業研究会★</p>	高校英語科教員	6/23 11/26	15
825	小学校英語強化教員(ERT)	齋藤	<p>■ 小学校英語強化教員として各小学校の支援に必要な知識と技能を確認し、共通理解を図る。</p> <p>(1)学習指導要領における外国語教育の理解★ (2)GIGA端末を活用した実務研修★ (3)英語教育推進リーダーによる研修★ (4)これまでの振り返りと情報交換● (5)授業研究協議★</p>	ERT	4/6(1)(2)(3) 8/2(4) 12/17(4)(5)	71
826	外国語教育推進担当者(CET)	齋藤	<p>■ 学習指導要領を踏まえ、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(1)CET研修について・学習指導要領における小学校外国語教育について・情報交換◆ (2)英語演習(教室英語・Small Talk) 講師:外国人講師14名◆ (3)学習指導要領における学習評価について・文字指導について・情報交換★ (4)小中連携会議・ALT配置日程調整会議◆</p>	CET各校1名	7/5(1)(2) 11/26(3) 11/30(3) 3/3(4)	335

827	市内中学校理科主任研修会	吉田	<ul style="list-style-type: none"> 理科授業における安全指導及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること等について研修する。また、子どもたちの理科への興味・関心を高めるために、教師自身が学び続けることの大切さや伝えるための工夫について学び、理科の授業力向上につなげる。 (1)校種別研修(小学校)★及び(2)校種別研修(中・高・特)★ ・安全指導 ・理科室の不要廃棄薬品、薬品管理簿等について(総合教育センター指導主事) ・放射線教育について(総合教育センター指導主事) ・新学習指導要領について〔学習指導要領のポイント、学習評価、小学校プログラミング教材等〕(総合教育センター指導主事) ・理科におけるかわさきGIGAスクール構想(総合教育センター指導主事) 	小中高 ろう学 校教員	1/7 3/17	180
828	小・中学校合同道徳教育研修	岡部	<ul style="list-style-type: none"> 講演会、授業公開を実施し道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。(共催研修) (1)全体会(小・中学校の授業づくりについて、道徳教育について)◆ (2)授業研究会(小、中学校の授業を視聴し、研究協議をする)★ 	小・中 学校教 員	8/24 10/18 11/19 12/10	592
829	道徳教育推進教師研修	岡部	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の道徳教育を推進していくために必要な知識や連携の在り方について研修する。 (1)特別支援学級での道徳科の指導について、情報交換◆ (2)中学校の実践報告、情報交換(各校の取組について)◆ 	小・中 学校教 員	6/22 2/18	338
830	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	望月	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度をはぐくめるキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質向上を図る。 (1)情報伝達と班別協議 青木 洋俊(教育政策室)◆ (2)実践報告 キャリア在り方生き方教育研究推進校 東小倉小・菅生中 講演「キャリア在り方生き方教育の充実と『キャリア・パスポート』の活用」 講師：長田 徹(文部科学省 教科調査官) 事務連絡(キャリア・パスポートの引継ぎと活用)◆ 	小・ 中・高 校教職 員	9/8 1/29	358
832	特別支援学級等新担任者研修	鹿島	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。 (1)「特別支援学級担任の基本」(群馬大学 霜田浩信教授)◆ (2)「障害のある子どもたちへの支援」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)◇△ (3)「サポートノートについて」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)◆ (4)「障害種別に応じた対応」(群馬大学 霜田浩信教授)△ (5)「特別支援学級の経営について」(川崎市立小杉小学校 前田三枝総括教諭)◆ (6)「自立活動について」(川崎市立中央支援学校 高田健太郎教諭)◆ 	特別支 援学級 等の新 担任者	5/17 5/31 6/22 6/30 7/13 7/31	776
833	特別支援学級等新担任者2年目研修	鹿島	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修 (1)「はじめようGIGAスクール」(特別支援教育センター林香織指導主事)◆ (2)班別研修レポート発表(特別支援教育センター指導主事)★ 	小・中・特 別支 援学級 等2年 目の担 任	5/15 11/1 10/30	209
834	コーディネーター養成研修	中澤	<ul style="list-style-type: none"> 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。 (1)「コーディネーター業務について」(特別支援教育センター中澤英之指導主事)◆ (2)「思春期と発達障害」霜田浩信(群馬大学教育学部教授)◆ (3)「教育相談の基礎知識」高橋あつ子(早稲田大学大学院)★ (4)「アセスメントの理解」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)◆ (5)「ワークショップ形式で個別指導計画の作成」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)▲ (6)「学びのユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」高橋あつ子(早稲田大学大学院)◆ 	中・高・特 の初め での コー ディ ネー ター	5/21 5/31 6/23 7/5 8/27 9/30	120
835	通級指導教室新任者等研修	清水	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修 (1)「通級指導教室の指導について」 清水寿紹(総合教育センター)◆ (2)「情緒の指導」講師：鈴木麗子(久本小通級指導教室教諭)、高木玲子(東住吉小通級指導教室教諭)◆ (3)「聴こえの指導」講師：三上庸子、江守里香(豊学校教諭)◆ (4)「言語の指導」講師：鈴木由紀(宮前平小通級指導教室教諭)、森慶子(はるひ野小通級指導教室教諭)◆ (5)「思春期の特性・中学校通級の指導」講師：佐藤大輔(玉川中通級指導教室教諭)◆ (6)「事例に基づく協議及び指導助言」講師：鈴木麗子(久本小通級指導教室教諭)、高木玲子(東住吉小通級指導教室教諭)、鈴木由紀(宮前平小通級指導教室教諭)、森慶子(はるひ野小通級指導教室教諭)、川上真貴(生田中通級指導教室教諭)★ 	通級指 導教室 を初め て担任 する教 員等	4/19 5/11 5/26 6/18 7/2 8/30	123
836	児童支援コーディネーター研修	山田	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援コーディネーターとして必要な知識や技術を習得する。 (1)センターとの連携・不登校児童の理解と対応(教育相談センター指導主事)★◆ (2)コーディネーターの役割と発達障害の理解(特別支援教育センター指導主事)◆ (3)アセスメントの理解(特別支援教育センター指導主事)● (4)いじめの理解と対応(教育相談センター指導主事)★ (5)チーム支援推進のためのケース会議の理解と実際(東海大学教授 芳川玲子)◆ (6)子どもとのコミュニケーションと自立(千葉心理学研究所長 光元和憲)◆ (7)個別の指導計画作成ワークショップ(特別支援教育センター指導主事)● (8)教員のためのカウンセリング基礎(日本女子大学教授 川崎直樹)◆ (9)UDL～ユニバーサルデザイン～(早稲田大学准教授 高橋あつ子)◆ (10)取り出し指導の意義と進め方・ICT活用(特別支援教育センター・教育相談センター指導主事)★ 	児童支 援コー ディ ネー ター	5/14 5/21 7/5 7/16 8/2 8/20 8/27 9/14 9/30 10/22	361
837	教育相談研修会	栗原	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒の理解を中心に、教育相談的な見方や考え方を学ぶ。 (1)不登校児童生徒の理解と対応★ (2)児童生徒理解△ 	小・中 教職員	6/28 1/25	332
838	新任栄養教諭	川城	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭として専門と経験を活かしながら、職務に対しての理解を深め、校務遂行に必要な力を高める。 (1)「栄養教諭としての連携の在り方」小田貴子(健康給食推進室指導主事)★ (2)「栄養教諭としての役割」富田登子(川崎市立東橋中学校 栄養教諭)★ 	新任栄 養教諭	5/25 10/19	4

839	GIGAスクール構想研修 (GSL養成研修)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GSL(GIGAスクール構想リーダー)を対象に、「かわさきGIGAスクール構想」の理解や、校内での役割や推進計画の作成などを行う。 (1)かわさきGIGAスクール構想とは、各種アプリの操作研修 講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ (2)各種アプリの操作研修、他校との情報交換 講師：(株)JMC樋口紗衣◆ (3)アドバンス研修 講師：Google認定講師◆ (4)各種アプリの操作研修、区ごとの情報交換 講師：(株)JMC樋口紗衣◆ (5)伝達研修・アプリ研修・推進校取組報告・情報交換 講師：(株)JMC樋口紗衣◆ 	小・中・特別支援学校 GSL	4/27・30 5/17・18・25 6/4・7・14 8/16・18・19・31 9/1 2/1・2 3/1	960
840	情報教育担当者会研修	草柳	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想、学校ウェブサイト、ICT整備、校務用コンピュータ等についてアカウント管理や情報モラル、整備予定やセキュリティの伝達を情報教育学校担当教諭に対して行う。 (1、2)GIGAスクールこうそうについて 講師：(GIGAスクール推進室 指導主事)★◆ (1、2)学校ウェブサイトについて 講師：(情報・視聴覚室 指導主事)★◆ (1、2)今後の学校ICT整備について 講師：(情報・視聴覚室 指導主事)★◆ (1、2)校務用コンピュータについて 講師：(情報・視聴覚室 指導主事)★◆ 	全校種 教職員 情報教育 学校 担当教 諭	10/15 2/1 2/2	342

(2) ICT活用

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
101	セキュリティ及び情報モラル教育	金子	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報セキュリティの重要性の理解とともに、情報社会での生き抜く子どもたちを育てる授業方法を習得し、学校全体で取り組む企画力、実践力を身につける研修(横浜国立大学教職大学院連携研修) (1)情報セキュリティ及び情報モラル教育 講師：指導主事・山本 光(横浜国立大学)◆ 	全校種 教職員	8/3	11
102	GIGAスクール構想研修 (ミライシード)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で小学校、中学校に導入される「ミライシード」の各種アプリケーションを用いた実践的な活用方法について学ぶ研修。 (1)ミライシードを活用した授業づくり 講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ 	全校種 教職員	7/29	42
103	GIGAスクール構想研修 (Chromebook)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で導入されるChromebookの基本的な使い方を習得し、授業での実践的な活用方法について学ぶ研修。 (1)Chromebookの基本的な操作研修 講師：(株)JMC樋口紗衣★ 	全校種 教職員	7/26	33
104	GIGAスクール構想研修 (GoogleClassroom)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で導入されるGoogle ClassroomやJamboardの使い方を習得し、実践的な活用方法について学ぶ研修。 (1)Chromebookの授業での活用 講師：(株)JMC樋口紗衣◆ 	全校種 教職員	8/4	38
105	GIGAスクール構想研修 (Googleフォームの使い方)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で導入されるGoogleフォームの基本的な使い方やミライシードのドリルパークの履歴参照方法を学ぶ研修。 (1)テスト作成、学習履歴での活用 講師：(株)JMC樋口紗衣◆ 	全校種 教職員	8/20	39
106	小学校情報教育研究会との 共催研究	石橋	<ul style="list-style-type: none"> ■ かわさきGIGAスクール構想で整備されたICT環境での授業づくりについて考え、研修で習得したことについて各学校でいかすための研修。 (1)(2)ICT活用の実践報告及び実践交流を通して、各校で効果的なICT活用を取り入れた授業やかわさきGIGAスクール構想実現へ向けて支援を行う。★ 	全校種 教職員	7/28	102
111	GIGAスクール構想オンライン研修 (放課後ミニ研修)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で導入されるChromebookの使い方を習得し、授業での実践的な活用方法について学ぶ研修。 (1)ドキュメント・スプレッドシートの活用方法◆ (2)Classroom、Jamboardの活用方法◆ (3)iPadの操作・活用方法◆ (4)Classroom、スライドの活用方法◆ (5)フォームでのアンケート、テスト作成◆ (6)ミライシードの活用方法(基礎)講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾◆ (7)ミライシードの活用方法(応用)講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾◆ 	全校種 教職員	10/8 10/14 10/15 10/21 10/22 10/28 10/29	210
112	GIGAスクール構想オンライン研修 (放課後ミニ研修)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ GIGAスクール構想の中で導入されるChromebookの使い方を習得し、授業での実践的な活用方法について学ぶ研修。 (1)オンライン指導、教育活動におけるオンライン利用◆ (2)ステップ2へ！授業改善と端末活用◆ (3)デジタル教科書、副読本の活用◆ (4)特別支援教育と端末の活用◆ (5)1人1台端末時代の情報モラル、情報セキュリティ、著作権◆ (6)アプリ、フィルタリングについて◆ (7)小学校低学年での端末活用◆ 	全校種 教職員	11/1 11/4 11/8 11/16 11/18 11/22 11/26	118
113	GIGAスクール構想オンライン研修 (iPad操作活用研修)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ iPadの基本的な操作方法や活用事例について学ぶ。 (1)iPadの基本的な使い方、ミライシードのログインの仕方 講師：(株)大塚商会 竹谷房寛◆ 	全校種 教職員	12/27	10
114	GIGAスクール構想オンライン研修 (コア・アドバンス研修)	今	<ul style="list-style-type: none"> ■ Google workspace for Educationの授業での活用や応用的な操作方法等について研修する。 (1)コア研修 講師：Google認定講師◆ (2)アドバンス研修 講師：Google認定講師◆ 	全校種 教職員	12/27	63

(3) 授業力向上研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加人数
201	国語科教育	伊藤悦	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。(共催研修)</p> <p>(1) 学びの主体を子どもにおいた授業づくり 講師：中村和弘(東京学芸大学教授)★</p> <p>(2) 授業づくり演習 講師：小学校常任委員/中学校教諭★</p>	全校種教職員	7/28 AM・PM	107
202	社会科教育	鈴木	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1) 授業改善研修会 中学校研究部会常任委員(中学校向け)★</p> <p>(2) 県内臨地研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)★</p> <p>(3) 小学校授業づくり研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)★</p>	全校種教職員	6/18 7/29 7/28	152
203	算数・数学科教育	松本	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 算数・数学科の授業改善▲</p> <p>(2) 小学校算数科授業づくりの基本 岡田紘子教諭(お茶の水女子大学附属小学校・教諭)★</p> <p>(3) 中学校数学科授業づくりの基本 伊吹竜二学力調査官・教育課程調査官(国立教育研究所教育課程センター)★</p>	全校種教職員	7/28 AM・PM	37
204	理科教育	吉田	<p>■ 授業研究や児童・生徒役として受ける研修、科学館や生田緑地での臨地研修を通して、子どもたちが主体的・対話的に学ぶためにはどのような手立てが必要なのか。子どもの学びを視点とした導入・展開の工夫、単元を貫く課題や学習問題の設定の仕方、子どもの表現の引き出し方・見とり方、GIGA端末の活用などについて考え、授業力を向上させる。</p> <p>(1) 「授業で理科を語り合おうー小・中学校合同授業研究ー」(共催研修)市立小学校理科教諭▲</p> <p>(2) 「電気の利用(小学校プログラミング教育)」総合教育センター指導主事★</p> <p>(3) 「子ども達の資質・能力を育むための授業改善の手立て」国士舘大学 教授 小野瀬倫也氏★</p> <p>(4) 「小学校理科GIGA端末の活用と指導力向上のための研修」総合教育センター指導主事★</p> <p>(5) 「中学校理科GIGA端末の活用と指導力向上のための研修」総合教育センター指導主事★</p> <p>(6) 「地層・植物観察研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員▲</p> <p>(7) 「天体観測研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員★</p>	全校種教職員	7/7(中止) 7/29 7/30 10/6(中止) 12/15	48
206	音楽科教育	伊藤由	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実践、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1) 小学校音楽科共催研修 「音楽器・器楽指導」講師：音楽教育推進協議会★</p> <p>(2) 中学校音楽科共催研修 ★</p>	(1) 小教員 (2) は中教員	7/29 1/19	104
207	図画工作・美術科教育	長澤	<p>■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手立てを研修する。</p> <p>(1) 図画工作科指導力向上のための研修 (小学校図画工作科研究会共催研修)★</p> <p>実技研修を行う 講師：図画工作科研究会常任委員</p> <p>(2) 図画工作科・美術科指導力向上のための研修★</p> <p>題材を設定して評価の計画を立て、指導と評価の一体化を図る研修 講師：指導主事</p>	全校種教職員	7/29 7/28	64
208	体育・保健体育科教育	門口	<p>■ 講演や実技研修を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。</p> <p>(1) 新学習指導要領に基づく指導と評価(共催研修) 講師：佐藤豊(桐蔭横浜大学教授)★</p> <p>(2) 新学習指導要領に基づく指導と評価(共催研修) 講師：高田彬成(帝京大学教授)★</p> <p>(3) 空手道の指導法(共催研修) 講師：川崎市空手道連盟 ★</p> <p>(4) 柔道の指導法(共催研修) 講師：高井明(元川中島中学校長)、市内中学校教員2名 ★</p>	全校種教職員	5/26 6/16 10/19 11/11	129
209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	川城	<p>■ 実践的な実技研修を通して、スキルアップや体験的な学習の工夫ができる教員の授業力向上を図る。</p> <p>家庭・技術・家庭科(家庭分野)「生活を豊かにする物の製作」(中学校施術・家庭科研究会共催研修)講師：大野 あすか(川崎市立王禅寺中央中学校 教諭)◇</p>	全校種教職員	8/18～ 動画配信	23
210	技術・家庭科(技術分野)教育	望月	<p>■ 実践的・体験的な活動を通して、教員の指導力や授業力の向上を図る。</p> <p>(1) 技能・技術研修1 (共催研修)材料と加工の技術 講師：井上 潔(西中原中学校総括教諭)△</p>	中学校・高等学校教職員	8/19	
211	英語科教育	斎藤	<p>■ 新しい英語教育に必要な指導方法について学び、授業改善を目指す。</p> <p>(1) 英語をより多く使って授業を進めよう 講師 インタラク外国人講師3名◆</p> <p>(2) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価について学ぶ～パフォーマンス評価の進め方～ 講師 玉川大学 工藤 洋路◆</p> <p>(3) ICTを活用した授業づくり 講師 上智大学短期大学部 狩野晶子◆</p>	全校種教職員	8/19 8/20	71
214	特別活動	高橋	<p>■ 学級会の具体的な指導等を理論や実践を通して、学級活動の授業力の向上を図る。</p> <p>(1) 具体的な学級会の進め方 小中学校特別活動研究会常任委員●</p>	全校種教職員	8/16	40

215	総合的な学習(探究)の時間	石井	<p>■ 体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。</p> <p>(1)(2)福祉単元の充実 各区社会福祉協議会職員との情報交換や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。 高木 寛之(山梨県立大学教授)◆</p> <p>(3)多摩川ガサガサ体験 中本賢(多摩川塾)★</p>	全校種 教職員	8/19 7/28	48
216	高校教育	山中	<p>■ 新学習指導要領で示された資質・能力の育成の実現に向けて、主体的に学習に取り組む態度の指導について、また指導と評価の一体化とカリキュラムマネジメントについて研修する。</p> <p>(1)前年度の高校教育研究会議の長期研究員の研究報告◇</p> <p>(2)カリキュラム・マネジメントについて 講師 浦和大学 特任教授 工藤 文三◇</p>	高校 教職員	8/24	28

(4) 教育課題研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加人数
301	研究の進め方	松本	■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。 (1) はじめの一步を踏み出そう！小林宏己(早稲田大学教授)◆ (2) 笑顔で学び合う研究協議に変えよう！小林宏己(早稲田大学教授)◆ (3) 1年間の研究の進め方を振り返ろう！小林宏己(早稲田大学教授)◆	全校種教職員	4/21 9/3 12/23	39
304	初任者を対象とする川崎市平和館見学	野口	■ 初任者研修において、川崎市の社会教育施設の専門的な役割について理解を深める機会の一つとして、川崎市平和館を実際に見学し、川崎市の歴史等について学び日常の教育活動に生かす。 研修場所・川崎市平和館▲	初任者研修対象の初任者	中止	
305	食育	川城	■ 学校全体で取り組む食育の推進に向け、食育の進め方や学校全体での取り組み方について学び、食育の実践につながる資質・能力を身に付ける。 食育の目的について理解し、学校全体で推進する取組について学び、教科だけではなく様々な場面で食育を推進できるようにする。講師：柳本理栄(川崎市立豊学校 栄養教諭) ★	全校種教職員	10/22	34
306	自分を大切に健康教育	野口	■ 学校における保健教育の推進に向け、DVに対する正しい理解を図るための教育や啓発を目的とし、学校全体で推進する取組について学ぶ。 講師：特定非営利活動法人エンパワメントかながわ 理事長 阿部 真紀 ★	全校種教職員	12/3	60
307	主権者教育	鈴木	■ 川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。 (1) 主権者教育概要説明・授業計画の作成 △	全校種教職員	中止	4
308	企業派遣	松本	■ 「カワスイ」を運営する株式会社アクア・ライブ・ネイチャーのビジネスモデルを学ぶとともに、市内学校団体なども来場する「カワスイ」を研修の題材として、子どもへの関わり方や考え方について学び、様々な視点から教育活動に取り組むことができる資質や能力を高めます。▲	全校種教職員	中止	
309	学級新聞づくり	門口	■ 新聞づくりのルール、わかりやすいまとめ方、簡単なレタリングなど、新聞づくりの基礎を学び、学級経営の充実を図る。(共催研修) ▲	全校種教職員	中止	
312	教育相談Ⅰ いじめをうまな学級学校づくり	山田	■ いじめの実態や発生の背景等の理論、そしてその具体的な対応法や未然に防ぐ方法をロールプレイなどを通して実践的に学ぶ。★	全校種教職員	7/27	40
313	教育相談Ⅱ ケース会議の理解と実際	山田	■ アセスメントに基づいた児童生徒の理解と対応の仕方、ケース会議の進め方を講義と演習を通して学ぶ。 講師：東海大学心理・社会学科教授 芳川玲子★	全校種教職員	7/26 7/28	48
314	教育相談Ⅲ 教員のための学校精神保健	山田	■ 不安が高く過敏なHSCと呼ばれる子どもたちへの支援を中心に、具体的な症例を用いながら、基礎的な知識を学ぶ。 講師：明治大学子どもこころクリニック院長 山登敬之◆	全校種教職員	8/18	21
315	教育相談Ⅳ 子どもの自立を考える	山田	■ 「ジブリ映画」を題材に、子どもが自立に向かう育ちの過程を知り、児童生徒理解を深める。 講師：ちば心理教育研究所長 光元和憲◆	全校種教職員	8/20	32
316	特別支援教育Ⅰ 「通常の学級での支援」	中澤	■ 特別支援教育について、より実践的で専門的な知識を身につける。 (1) 「アセスメント時に検査を選ぶ視点」(放送大学客員教授大六一志)◆ (2) 「一人一台端末でできる特別支援教育」 (東京大学先端技術研究センター平林ルミ助教)◆ (3) 「中学校から高等学校への接続」(NPJ法人フトゥーロ三島節子)◆ (4) 「算数障害の理解と支援方法」(筑波大学 非常勤講師山本ゆう)◆ (5) 「児童生徒指導と特別支援教育」(国立特別支援教育総合研究所笹森洋樹)◆ (6) 「通常の学級でできる支援の手立て」(川崎市南部地域療育センター原仁医師)	全校種教職員	7/26 7/27 7/28 7/30 8/2	485
318	特別支援教育Ⅱ 「学級・学校での支援」	中村	■ 重度心身障害児、難聴、弱視に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 (1) 難聴の指導、難聴概論(川崎市立豊学校教諭 三上庸子、江守里香)◆ (2) 難聴指導の実際、レポート報告(川崎市立豊学校教諭 三上庸子、江守里香)★ (3) 弱視の指導、弱視教育概論(横浜市立盲特別支援学校教諭)★ (4) 重度障害児教育概論(上越教育大学土谷良巳名誉教授)★ (5) 重度障害児レポート報告及び協議(上越教育大学土谷良巳名誉教授)△	特別支援学校、特別支援学級級担任	5/26 6/2 7/9 8/3	23
320	働き方・仕事の進め方改革	伊丹	■ 教職員の長時間勤務は、大変重要な課題となっています。業務多忙の中で子どもたちと向き合う時間が十分に取れていないという実感もある中、自校の働き方・仕事の進め方を見直すことにより、業務改革を進めていくための考え方を学ぶ。 (1) 自校でやってみる働き方・仕事の進め方改革◆ (2) 自校でやってみる働き方・仕事の進め方改革◆	全校種教職員	8/4 12/9	64

(5) 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加人数
401	養護教諭キャリアアップ	野口	■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要とされている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。 (1) 令和元年度・2年度文部科学省健康教育指導者養成研修報告会 若井直子(川崎市立栗木台小学校 総括教諭、養護教諭) 岡村智美(川崎市立中原中学校 養護教諭) 廣上悦子(川崎市立百合丘小学校 養護教諭) 湯本みゆき(川崎市立川崎総合科学高等学校 養護教諭)◇ (2) 子どもの心を動かす養護教諭の授業 佐見由紀子(東京学芸大学教職大学院准教授)◆	養護教諭	8/20	72
403	栄養教諭・学校栄養職員	川城	■ 食に関する指導について学び、指導力の向上を図る。 食に関する指導について～GIGA端末の効果的な活用～・小川聡美(川崎市立住吉小学校栄養教諭)・梶原聖乃(川崎市立東柿生小学校栄養教諭)◆	栄養教諭・学校栄養職員	9/22	47

405	幼児教育と小学校教育の接続	石井	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 子どもの発達を踏まえ、一人一人の子どもの見方、関わり方のポイントを学ぶ。 講師 寶來 生志子(横浜市立小学校長)◆ 	全校種 教職員	12月下旬より 3か月間	20
-----	---------------	----	--	------------	-----------------	----

(6) リクエスト研修 その他

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延 人数
	リクエスト研修		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。 (1) 要請に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター) 	全校種 教職員		2,038

3 **カリキュラムセンター事業**

学習指導要領、かわさき教育プラン等を踏まえて、教育諸課題に係る研究を行うとともに、研究成果をもとに教員の資質・能力を高めることや学校の指導体制を構築するための支援を行った。

■事業目標

- 1 学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実
- 2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進
- 3 教職員の資質・能力や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備
- 4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進
- 5 所管業務の効率的な執行

■事業内容

1 学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実

(1) 拡大要請訪問・要請訪問の実施

- 各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。また、拡大要請訪問が各学校の年間を通した授業改善への取組に位置付けられるよう支援した。
 - 新型コロナウイルス感染症の感染状況により、規模を縮小して実施するなど当初の予定から変更したケースもあったが、各学校の実態や要望に応じて実施した。
- ★拡大要請訪問 21 校実施（中止 3 校）

(2) 教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成

- 教育課程研究会では、授業研究や研究協議を通して、新学習指導要領の趣旨や内容について周知するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」、「児童生徒の発達を支える指導の充実」等についての理解が深まるように努めた。
 - 各教科等について、全市に動画配信で新学習指導要領の趣旨や評価について周知した。動画は何回も視聴できることや、様々な教科が見られるという利点があり、多くの教員が視聴することができた。今後の開催については、集合しての実施や、動画配信がよい場合などを内容や新型コロナウイルス感染症の感染状況によって開催形態等を考えていきたい。
- ★6月 授業研究会 8月 実践報告会等は動画配信で実施
- 小・中学校については、各学校が学習指導要領及びかわさき教育プランの理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる資料として総則冊子を作成した。同様に、研究(部)会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究冊子(CD-ROM)を作成・配布した。
 - 新学習指導要領の趣旨等について、高等学校各教科等研究協議会等の機会を活用し、伝達・周知することができた。また、総則について「総則・総合的な探究の時間」部会の一環として、総則についてのオンライン動画を作成し、各学校での研修等に活用できるようにした。

(3) 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の研究及び支援

- 「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」が他教科等の授業や教育活動に生かされるよう、様々な場面で成果や考え方を広め、実践につながるよう支援した。
- ★年2回の担当者会を双方国オンライン形式で開催
- ★第2回の担当者会において、GIGA 端末を活用した学習ソフト(ドリルパーク)を活用した個に応じた指導について講師を招いて研修

2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

○研究主題「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」のもと各種研究に取り組んだ。

(1) 学校教育に関する調査・基礎研究

○指導主事による施策研究及び調査・基礎研究として、研修の見直し、学力調査分析活用、新しい評価、教科用図書の調査研究、G I G A端末を用いた学習指導等に取り組んだ。

○新しい学習評価について、教育課程研究会や新教育課程説明会、学習編成届説明会などの機会でも周知した。さらに、各学校からの要請に応じて校内研修の講師を務め、「観点の趣旨」や「指導と評価の一体化」などについて説明し、評価のための評価ではなく、資質・能力を育成するための評価について、支援することができた。また、学習評価のための資料として、「中学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」を作成し配付した。

(2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

○研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、各学校の授業改善等の取組を支援した。

○センター研究報告会はオンラインコンテンツを視聴する報告会週間と報告分科会(集会・Zoom形式)という2段構成で実施した。これまで課題であった「報告内容を複数学びたい」という声にも対応できるようになり、複数の研究報告を視聴することが可能となった。

★長期研究員による研修 6研究 指導主事と研究員による研究 4研究
カウンセラー研究 1研究 その他各室指導主事による指導主事研究

★オンライン報告期間参加人数 733名 報告分科会参加者合計 287名

3 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

(1) 必修・希望研修の充実

○教職員のライフステージに応じた年次研修を中心とする必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を教員育成指標に基づいて実施し、専門職としての資質・能力や指導力の向上を図った。また、「学び続ける教員」の育成と「働き方、仕事の進め方」の観点の両面からの研修の充実と見直し等、研修推進体制の整備に努めた。

○新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合型研修の実施が困難であったが、教職員の学びを止めないように、これまで活用してきたe-ラーニングに加え、動画配信やテレビ会議システムといったICTを活用したオンライン研修を実施した。

○研修内容と感染状況を判断し、集合形式とオンライン形式を適切に選択し実施した。感染症対策としてZoomを活用したオンライン研修は、働き方、仕事の進め方の観点からも有効であった。

○新任栄養教諭研修については、健康給食推進室と連携して市内の栄養教諭を講師として集合形式で実施した。職務や役割についての理解が深められるように感染対策を講じながら、グループによる協議やワーク等を加えて実施した。

(2) 指導改善研修の充実

○研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

○教育活動の振り返りや、教師としての専門性を高める研修を行うことにより、受講生の指導力の向上につながった。

○受講者の実態と課題に応じた研修計画を立て、関係機関、施設と連携を取りながら適切に研修を実施した。

4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

(1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校の校長会と連携を図り、川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに、報告会等を通じて各学校へ全市的な課題と授業改善の視点等を周知した。拡大要請訪問等を活用し、各種調査の結果等をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 学習状況調査に関しては、小学校は5月、中学校は11月に予定通り実施し、有意なデータを得ることができた。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。
- 研究推進校事業は、感染予防対策を講じながら、可能な限り研究を進めるよう推進し、各学校の実態に合わせた報告を実施することができた。
★研究研修支援講師派遣 件 研究推進校 校
- 川崎市の教員を目指す大学生等に向けた「かわさき教師塾『輝け☆明日の先生』」を開講した。新型コロナウイルス感染症の感染状況により、全ての会を集合形式で行うことができなかったが、オンライン形式の取り入れ予定していた内容を行うことができた。

(2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 各プロジェクトチームにおいては定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。
- 小・中・高等学校へのALT配置、小学校へのERT配置による外国語教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校中核英語教員研修（CET）研修、中学校外国語教育指導力向上研修、高等学校外国語教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。
- 小学校英語強化教員（ERT）の支援により、学級担任の英語授業力向上を図った。
★配置ALT数 小・中学校 107名 高等学校 6名
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員CST養成プログラム」を実施し、中核理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質・能力の向上を図った。
★理科支援員配置校 小学校 113校
★CST認定者数 昨年度3名、全72名、CSTによる研修実施4回
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携した「現職教員CST養成プログラム」について、横浜国立大学の教職大学院への改編が行われる令和3年度についても、引き続き実施していく方向で合意することができた。
- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小中合同道徳教育研修や道徳教育推進教師研修、教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。
- 道徳教育推進教師研修では、神奈川県指導主事で作成した動画の配信を行い、道徳教育推進のための具体的な取組について周知した。道徳研究会議等の実践を取り入れる学校が増えた。
★小中学校道徳教育研修はレポート研修に変更 約270名受講
- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業等を円滑に実施した。
- キャリア在り方生き方教育については、教育政策室や中学校校長会進路指導部会と連携して、総合教育センター内での分散とオンラインテレビ会議の2つの方法で実施した。
- 全面実施となったキャリア・パスポートの利用方法や、小・中・高の引き継ぎについて周知した。
- 主権者教育、消費者教育等の各事業において、各部署との連携を図り、円滑に事業等を進めるこ

とができた。

- 主権者教育については、担当者会で資料配付を行い、周知を図る等の取組を行ったが、予定していた夏期研修会は行わなかったため、授業研究会等で周知の機会をもった。
- 教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。
- 副読本かわさきについては、研究会議を設置し、長期研究委員と研究委員により、令和5（2023）年度発行予定の大改訂版に向けた研究を行った。

（3）人権尊重教育の推進

- 総務部教育政策室に協力することや進路説明会の実施等に係る事業を円滑に実施した。

5 所管業務の効率的な執行

（1）各種指導事務の円滑な推進

- 各種事業について、他室や指導課、区教育担当、教育政策室等と連携して実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習等の指導事務を円滑に実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成については、「指導要録記入の手引き」小学校版、中学校版のそれぞれを作成し、配付した。
- 中学校における新学習指導要領全面实施を受けて、「学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」を作成し、冊子と電子ベースで周知した。
- 夜間学級への入学希望者の相談、面接等の対応を学校と連携を図った。

（2）各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進

- 研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。
- 研究推進担当者会では、業務分担に基づき、感染拡大防止とICT機器の活用を踏まえ、研究会全体会、研究報告会等の改善を行った。
- 研修推進担当者会では、研修の目的に応じて、感染状況も考慮しながら、集合形式、オンライン形式、eラーニング形式等の形態を取り入れた。
- 会議の精選、研修等応援体制等を見直した。
- 指導主事同士が定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。

（3）教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進

- 神奈川県、関東地区、指定都市、全国の各教育研究所連盟等との連携を図った。
- 県教連について、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、全体会はオンラインで、分科会は紙面での開催大となった。
- 指定都市共同研究については、政令指定都市20市で調査研究を行い、共同報告書を作成した。

（4）横浜国立大学との連携事業

- アドバイザースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業の推進を図った。
 - 教職大学院の客員教授として派遣し、情報に関連した授業を担当したり運営会議に参加したりするとともに、大学院生の研究の指導や長期研究員研修等に携わった。
- ★アドバイザースタッフ派遣 2件

4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICTの環境整備、市立学校のコンピュータネットワーク（教育用・校務用・図書館用）の運用管理、教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修を行っている。令和3年度は、「かわさきGIGAスクール構想」が始まり、令和2年度に整備したICT環境と1人1台端末を活用した教育活動が学校で円滑に実施されるよう、学校支援と活用に向けたルール作り、周知等を行った。

また、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の推進を図っている。

■重点目標

I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

- 1 教育の情報化に向けた研究の推進
- 2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実
- 3 市立学校のICT機器の計画的整備
(GIGAスクール構想による、校内ネットワーク・端末等整備)
- 4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進
- 5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEBの活用促進、ネットワーク及び端末の最適化
- 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上
- 7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

II 視聴覚センター事業の推進

■事業内容（事業概要）

I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進

○市の教育プランや総合計画を考慮し作成され、本年が5年目（最終年）となる「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子供とふれあう時間の確保に取り組んだ。「情報化推進協議会」を中心にPDCAサイクルを循環させることにより、本計画の継続的な見直しを図った。

1 教育の情報化に向けた研究の推進

- (1) 情報活用能力育成研究会議（長期研究員と研究員による研究）

<研究主題> 情報活用チェックリストを用いた学校全体での情報活用能力の育成の取組
—GIGAスクール構想の実現に向けた抽出校の事例研究—

○本研究では、抽出校におけるGIGAスクール構想推進の事例と教員や児童生徒の意識の変容を分析し、全ての学校がチェックリストを活用できるような具体的な方法について検討した。その結果、チェックリストの活用が学校全体で情報活用能力を育成するための目標設定や指導計画立案の有効な手立てとなり、児童生徒の情報活用能力に関する意識の向上につながることを確認された。また、センター研究報告会では、抽出校の取組から明らかになったチェックリストの具体的な活用法等、実戦的な内容を中心に報告をした。

- (2) 教育情報化推進モデル校との研究 【旭町小学校・川崎高等学校附属中学校】

○旭町小学校…GIGAスクール構想による1人1台端末の学習環境を想定した検証を行った。検証の結果、学年の発達段階に応じた授業の具体例を確認することができただけでなく、

端末の持ち帰りや校内研修等の運用面に関する資料も作成した。研究の成果は研修等を通して広く周知した。

- 附属中学校…生徒 1 人 1 台のタブレット型端末と全教室への無線 LAN 環境が整備された学習環境の特色を生かし、コロナ渦の状況においても学びを保証するオンライン指導についての研究を進め、資料を作成した。研究の成果は、オンライン指導に係る研修等を通して広く周知した。
- (3) 情報教育に関する冊子の作成（「5分でわかる情報教育 Q&A【第15版】」・指導主事研究）
 - 新学習指導要領も考慮し、これまでの内容をさらに充実させた。情報活用能力育成や情報モラル教育について特集を組み、かわさき GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末の活用の促進にも役立つ内容とした。また、令和 4 年 3 月に改訂する「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」について特集し、今後の川崎市の教育の情報化の方針を掲載した。
- (4) 「かわさき GIGA スクール構想」に関する冊子等の作成をはじめとした教職員等への周知
 - 他部署と連携をしながら、「かわさき GIGA スクール構想教職員向けハンドブック 2」を作成した。また、かわさき GIGA スクール構想について、教職員が情報共有できるサイトや Web ページを作成し、教職員のみならず、広く保護者や市民にも周知を図った。

2 授業力向上に向けた ICT 活用指導力を高めるための研修の充実

- 指導力の向上や確かな学力の育成、校務の標準化・効率化を図るために、効果的な ICT 機器の活用研修を推進した。

(1) 校務支援システム研修

○校務支援システムの実機を使った研修を実施し、学校での円滑な活用を促した。

- ★実施回 全 8 回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、回数を分散して開催
 - ・新任教頭研修・新任教務主任研修（2 回）
 - ・調査書に関わる研修（3 回）
 - ・初任者研修（3 回）

(2) 夏季研修

○文部科学省の「教員の ICT 活用指導力」の評価基準に対応した研修を行った。研修講座番号、研修講座名、実施形態、参加延べ人数は次のとおりである。

101	情報セキュリティ及び情報モラル研修	双方向オンライン	11 名
102	GIGA スクール構想研修（ミライシード）	集合	42 名
103	GIGA スクール構想研修（Chromebook）	集合	33 名
104	GIGA スクール構想研修（classroom jamboard）	双方向オンライン	38 名
105	GIGA スクール構想研修（Google Forms）	双方向オンライン	39 名
106	小学校情報教育研究会との共催研修	集合	102 名

新型コロナウイルス感染拡大に配慮しながら、研修の内容に応じて実施形態を工夫した。研修後の受講者のアンケートでは、授業づくりに役に立つ研修であったとの評価がとて多かった。

○情報セキュリティ・情報モラル教育について授業等を通じて、どのように教えていくかなど教職員の授業力等のスキルアップを図るために実施

- ★実施 1 回 ※「情報セキュリティ及び情報モラル教育」（横浜国立大学教職大学院との連携講座）をオンライン研修として実施

(3) リクエスト研修

○学校や研究（部）会からの要請に応じ、GIGA 端末活用研修、ICT 授業活用（オンライン指導含む）、情報モラル教育、ウェブページ作成・更新等、学校や教員の要請に応じて行う研修を企画実施し、教職員のスキルアップを図った。

- ★訪問研修 52 回

(4) 情報モラル教育に係わる研修の実施

★各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼。

○研修講師等については、センターから紹介するとともに、リクエスト（学校訪問）研修を通して教職員等への情報モラル教育研修の充実に取り組んだ。リクエスト研修の際には、研修講師による情報モラル教育の実施だけではなく、各教科等によるカリキュラムへの位置付けについても含めた研修として進めた。

(5) 「かわさき GIGA スクール構想」実現に向けた研修

○「かわさき GIGA スクール構想」実現に向け、構想内容や取組例等の周知を目的とした説明会や機器を用いた操作研修等を実施した。

★教職員向け…実施 26 回 約 1,513 名（悉皆研修 5 回 希望研修 21 回）

★教育情報化推進モデル校向け…実施 14 回（Google11 回 Benesse 3 回）

3 市立学校 ICT 機器の計画的整備

○新学習指導要領実施に向けた教育環境の充実や教職員の業務の効率化をめざし、川崎市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた今年度は、令和2年度に整備した国の GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 環境及び新型コロナウイルス感染症予防対策対応に係る環境(オンライン指導等)の本格運用を通して、必要に応じた追加整備を進めた。

★主な整備等 ※新しい契約は[新規]、継続した単年度契約は[継続]

- (1) [新規] 非常勤講師用等 GIGA 端末整備 (1,500 台) ※地方創生臨時交付金活用
- (2) [新規] 高等学校校内無線 LAN 追加整備 ※地方創生臨時交付金活用
- (3) [新規] 普通教室における大型提示装置整備 ※学事課契約 ※地方創生臨時交付金活用
- (4) [継続] GIGA スクール端末活用支援のため「GIGA スクールサポーター」の配置
- (5) [継続] 緊急時対応用モバイル Wi-Fi ルータ回線確保
- (6) [新規] 校務用コンピュータ機器等整備(小・中・高・特支・教委)
- (7) [新規] 小学校コンピュータ等機器等整備(小学校Cグループ 34 校)
- (8) [新規] 中学校教育用コンピュータ整備 (50 校)
- (9) [新規] 中学校プログラミング学習用ロボット整備
- (10) [新規] 川崎市立川崎総合科学高等学校コンピュータ機器整備
- (11) [新規] 総合教育センター第2・第3研修室コンピュータ機器賃貸借契約

4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進

○各システムの活用促進にむけて次の業務を推進した。

(1) 教育情報・学習指導案データベースの充実・活用促進

(2) 即時性の高いウェブページ更新システムの運用開始

★より効率的・効果的にウェブサイト運用できるコンテンツマネジメントシステム (CMS) の構築を達成し、総合教育センター・学校・研究(部)会の新しいウェブサイトを公開するとともに、公開されたページの巡回確認を行い、ページの新規作成や更新を支援した。

(3) 川崎市図書館総合システムの有効活用

○年2回の図書担当者連絡会でのシステム研修及び、総括学校司書・学校司書への研修を計画的に実施した。

○令和5年度更新予定の新図書館システムに向けて、代表者の会議及びヒアリング等を行った。

5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEB の活用促進、ネットワーク及び端末の最適化

○教職員の働き方改革の視点から、システム等の活用促進に向けて次の業務を推進した。

- (1) 校務支援システム及び高等学校学務システムの活用促進
 - 教員の校務の効率化と重要情報保護の観点から校務支援システムや学務システムの円滑な運用を図った。特に、令和2年度から導入された校務支援システム（C4th）については、操作等と支援するために研修を行ったり、ヘルプデスクと連携をしたりし、活用の促進を図った。
 - 学務システムの新学習指導要領に向けた帳票の検討。
- (2) 情報共有・発信ツールとしての SAINS-WEB の活用促進を図る。
 - ★他室、他課からの SAINS-WEB 掲載依頼 215 件（昨年度 240 件）
 - SAINS-WEB の活用促進を図り、教職員への周知方法との一つとして SAINS-WEB が定着した。掲載にあたり、庁内での連携強化を図るために、市イントラネットシステムを活用した。
- (3) 働き方改革の視点から、複数のネットワークや端末の最適化に向けた技術的な検討を進める。

6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

- 情報流失防止の観点から教職員の情報モラル・情報セキュリティの徹底に取り組んだ。
 - (1) GIGA スクール構想に対応した学校情報セキュリティポリシーの改訂及び関係規程の整備
 - 「学校情報セキュリティ対策基準」においてクラウド等外部サービス利用、学習者用 1 人 1 台端末におけるセキュリティ等の改定を実施した。
 - GIGA スクール構想に関する次の 3 つの規約を制定した。
 - ・「かわさき GIGA スクール構想端末の管理及び運用に関する規約」
 - ・「かわさき GIGA スクール構想アカウントの管理及び運用に関する規約」
 - ・「かわさき GIGA スクール構想ネットワークの管理及び運用に関する規約」
 - 「川崎市立学校等ドメイン管理要綱」を制定。
 - (2) 情報流失防止に関する活動（管理台帳の作成等）
 - USB メモリ等の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成を依頼し、各学校で実施した。
 - 庶務課と連携した「情報公開・個人情報保護制度研修会（学校対象）」を実施し、具体的な内容に基づいた研修とすることで、教職員の情報モラル意識向上に取り組んだ。
 - (3) コンピュータウィルス対策に関する活動
 - 学校での可搬媒体（USB メモリ等）扱いについての周知徹底に努めた。また、学校教育部指導課とともに、市立学校における USB メモリ等可搬媒体に関する台帳の管理も引き続き取り組んだ。
 - (4) 教育のオンライン利用に伴う情報セキュリティに関するガイドラインの作成
 - 行政情報課や ICT 推進課に相談の上、ガイドラインやチェックリストを作成した。オンライン指導を行う際の手順や資料とともに、各学校に示した。

7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

- (1) 「川崎市立学校インターネット問題相談窓口」 平日 8:30～20:15 まで電話相談受付
 - ★インターネット問題 年間相談総件数 25 件
(内容別件数)
 - ・グループ間トラブル相談 4 件
 - ・投稿等削除要望 5 件
 - ・ネット被害相談等 3 件
 - ・ネットモラル対応相談 4 件
 - ・課金請求対応 1 件
 - ・ネット依存相談 8 件
 - インターネット監視
(ネットトラブル発見時は、学校への連絡、プロバイダへの削除依頼をするなどして対応)
- (2) ネットトラブルの未然防止、啓発等のためリーフレットの配付
 - 「川崎市版 保護者向けインターネットガイド 2021 年度版」(A3 判裏表) (全小 1～高 3 保護者・教職員に配付) として作成した。

(3) 「川崎市立学校インターネット問題連絡協議会」の開催（開催2回 ※1回は紙面開催）

○川崎市立学校インターネット問題連絡協議会にて、学校、PTA、県警等と情報交換をし、インターネットトラブルに関する最新情報を共有し、それぞれの立場から子どもたちへの啓発を行うための協議を行った。情報・視聴覚センターでは、最新の情報をもとにして、教職員研修を実施したり、保護者向けリーフレットに最新の情報を盛り込んだりして協議会の内容を生かした取り組みを行った。

II 視聴覚センター事業の推進

○市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。

視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、39回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

(1) 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備、貸出

○教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週2回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

※令和3年度視聴覚教材の貸出状況（センター→ライブラリー）

教材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mm フィルム 本数	0	0	0	0	8	0	36	12	10	6	0	2	74
ビデオ・DVD 本数	6	2	12	0	9	3	14	27	18	3	10	12	116
その他 本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 本数	6	2	12	0	17	3	50	39	28	9	10	14	190

(2) 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

○平和教育映像教材等連絡調整会議を11月25日（木）に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、9作品を購入した。

(3) 第39回わが町かわさき映像創作展の開催

○わが町かわさき映像創作展は39回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。

・応募期間 令和3年10月12日（火）～令和4年1月6日（木）

・応募総数 13点（一般応募作品7点・小中学校各研究会推薦作品計6点）

・審査日 令和4年1月28日（金）

・審査員 6名

・表彰
 ・グランプリ 1点（賞状・トロフィー） ・金賞 1点（賞状・楯）
 ・銀賞 2点（賞状・楯） ・優秀賞 4点（賞状・楯）
 ・奨励賞 4点（賞状・メダル）

・表彰式・作品上映会 令和4年2月26日（土） ※新型コロナウイルス感染拡大防止により中止
 賞状等は送付により授与

・入賞作品

グランプリ

「発育測定」

麻生小学校 河原篤子

金賞

「I. M. S」

高津高校視聴覚委員会

銀賞

「川崎のロボット特集！！」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 山本 南

「スクールヒーローズ」

富士見台動画プロジェクトチーム

優秀賞

「子どもと行きたい！川崎で夏を楽しもう」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 金子 紫音

「おいしい給食たのしみだね」

下河原小学校4年生

「がっこうのきまりおしえるよ」

下河原小学校3年生

「1年生ってこんなことしたよ」

下河原小学校2年生

奨励賞

「鹿島田駅周辺のおすすめテイクアウト 甘いもので幸せに」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 井上 明音

「神奈川 in 京浜臨海エリア～学ぶ・楽しむ 電車でふらっと みんなの社会科見学～」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 久保田 南海

「好きです かわさき 愛の街」

松田遥平

「委員会紹介ビデオ」

大島小学校 環境美化ボランティア委員会

(4) 映像教材の開発と提供

○昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。

(今年度開発した映像教材)

- ・かわさきマイスター

【情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営】

○ 業務の円滑な運営のために次にあげる各種会議等を開催し連絡・調整を行った。

- (1) 情報化推進協議会 (校長会・学校)
- (2) 情報教育学校担当者会 (全学校)
- (3) 学校ウェブサイト担当者会 (全学校)
- (4) 情報収集活用委員会 (研究(部)会)
- (5) 保守定例会 (コンピュータ機器保守業者)
- (6) ネットワーク定例会 (ネットワーク保守業者)
- (7) G I G A保守定例会 (GIGA 端末等保守業者)
- (8) CMS 定例会 (CMS 保守業者)
- (9) 校務支援システム定例会 (校務支援システム保守業者)
- (10) 高等学校学務システム担当者会
- (11) 平和教育映像教材等連絡調整会議
- (12) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議
- (13) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会

5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。令和3年度の事業概要は次のとおりである。

1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

(1) 多様な学びの場における支援の充実

学校教育部指導課と連携し、新学習指導要領等の行政説明や情報交換、研修等を行った。新型コロナウイルス感染防止の観点から対面とオンラインを併用した。

- ①特別支援学級担当者会（対面 1/4 回、オンライン 3/4 回）
- ②特別支援学校担当者会（対面 2/4 回、オンライン 2/4 回）
- ③特別支援学校地域連絡会議（対面 3/3 回）
- ④特別支援教育コーディネーター連絡会議（対面 1/5 回、オンライン 4/5 回）
- ⑤通級指導教室センター的機能担当者会（対面 6/6 回）
- ⑥特別支援学校センター的機能担当者会（対面 3/3 回）

(2) 個別の支援計画の作成と活用

一人一人のニーズに応じた連携しやすい個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用に向けて、周知・活用を進めた（就学相談・進学相談、学校コンサルテーション等）。

(3) 障害者差別解消法施行後の取組

合理的配慮の提供については、各学校から合理的配慮実施報告書の集約し、保護者・本人の表明から具体的な実施までの事例発信を行った。また、基礎的環境整備としては、学習指導要領に基づきユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりを進めた。

(4) 特別支援教育問題研究会議における諸課題の研究協議（学校教育部指導課所管）

特別支援教育に関わる諸課題については、例年各校種の委員から報告や意見交換を行い、今後の特別支援教育の推進に向けて協議を行っている（第1回（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）、第2回オンライン開催）。

2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

(1) 教育相談の実施

① 来所相談の概要

表1 来所相談件数と終結件数

	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度
継続件数(終結)	1,010(544)	958(547)	370(307)	245(224)
新規件数(終結)	1,275(783)	1,216(786)	965(452)	1,350(1,208)
計	2,285(1,327)	2,174(1,333)	1,335(759)	1,595(1,432)

※令和3年度の新規件数には、入級相談270件を含む

表 2 相談担当者の総面接回数

	30年度	令和元年度	2年度	3年度
一般的な相談	5,562	4,702	3,176	3,171
就学・入級相談	3,077	2,606	2,302	2,469
総面接回数	8,639	7,308	5,478	5,640

②相談待機日数

相談の申込から初回面接までの待ち日数（年平均）は、就学相談 32.7 日、入級・一般相談 48.5 日 平均 40.6 日であった。

③電話相談 教育相談センターの電話相談の項を参照

(2) 就学相談の実施

①就学相談件数の推移

相談件数は、年々増加傾向にある。令和元年度から通常の学級への就学意向である場合は、一次相談を小学校に変更したことから、令和元年度は件数が減少したが、令和3年度は平成30年度の就学相談件数を上回る件数となった（図1）。

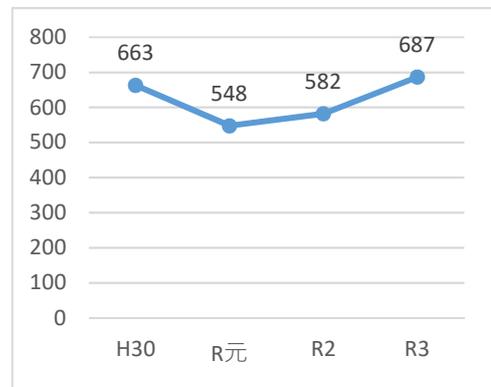


図 1 就学相談件数

令和3年度より就学相談専門員が3名体制となった。調整担当指導主事が幼稚園・保育園等の訪問を実施し、複数場面で幼児の様子を観察することにより、多角的に教育的ニーズおよび必要な支援を把握するよう努めた。

相談内容としては、医療的ケアを必要とする児童や重複の障害を併せ有する児童、保護者の意向の多様化など、学びの場の合意形成が困難なケースが増加している。

②就学説明会（初就学）の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、就学相談にかかわる情報については、令和2年度から引き続きホームページで動画配信・資料掲載を行った。

③総合教育センター相談室における就学相談

地区担当指導主事と就学相談専門員は、保護者との面談を行い、心理臨床相談員は、子どもの行動観察を行った。初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続した。令和元年度は、特別支援学校知的障害教育部門を希望する幼児の行動観察を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度から個別対応で相談を実施した。認定特別支援学校就学者の判断にかかわる相談や合意形成が困難な相談については、相談や行動観察を複数で対応するとともに、指導主事が幼稚園・保育園、療育センター等を訪問し、日常の様子を観察したり、小学校での教育相談に指導主事が同行したりするなど、より丁寧な相談を行った。

④川崎市教育支援会議の運営

就学先決定にかかわって、専門家からの意見聴取の機会を設定し、川崎市教育支援会議（年4回）、教育支援会議専門部会（9月～3月（12月・2月は審議完了のため中止））を開催した。教育支援会議での審議件数は増加傾向にある。特別支援学校小中学部および小中学校特別支援学級への就学・

進学状況は以下のとおりである（図2～6）。

教育的ニーズおよび必要な支援にかかわる審議内容の傾向としては、本人・保護者との合意形成に向けてより丁寧な相談が必要な場合や、周産期医療の進歩から複数の障害を併せ有する子どもの支援や発達障害等があり、知的な遅れはないものの行動調整への配慮や支援等が必要な場合について、専門家からの意見聴取をおこなった。

図2 令和3年度 教育支援会議審議件数（初就学・既就学）

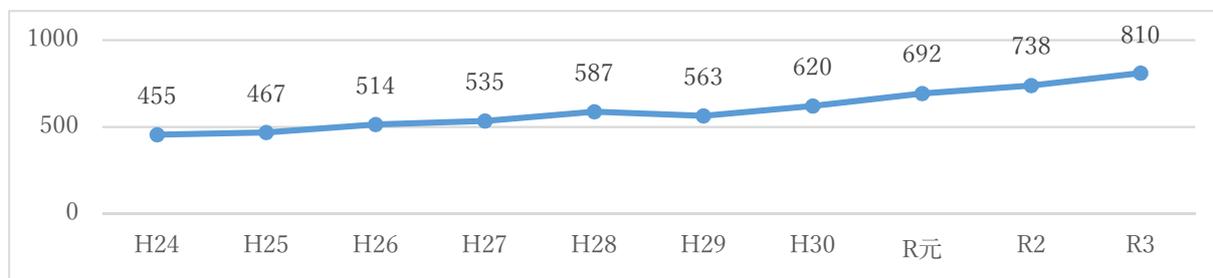


図3 特別支援学校小学部への就学（県立・市立）

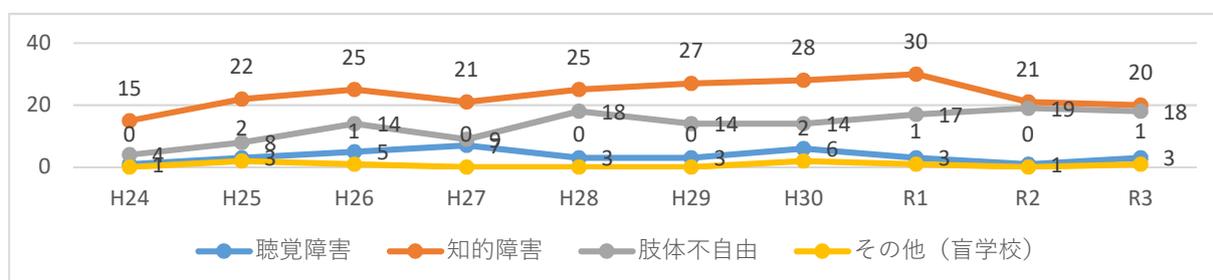


図4 小学校特別支援学級への就学

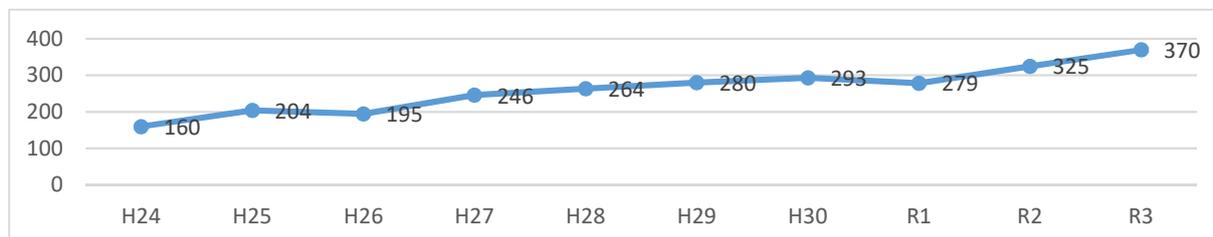


図5 特別支援学校中学部への就学（県立・市立）

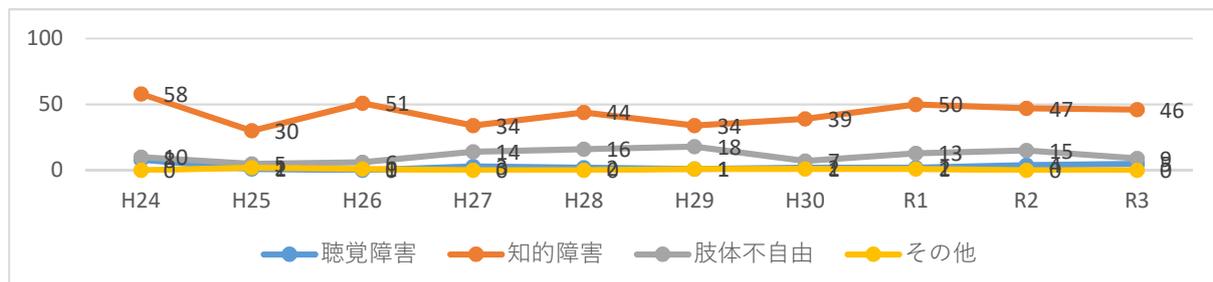
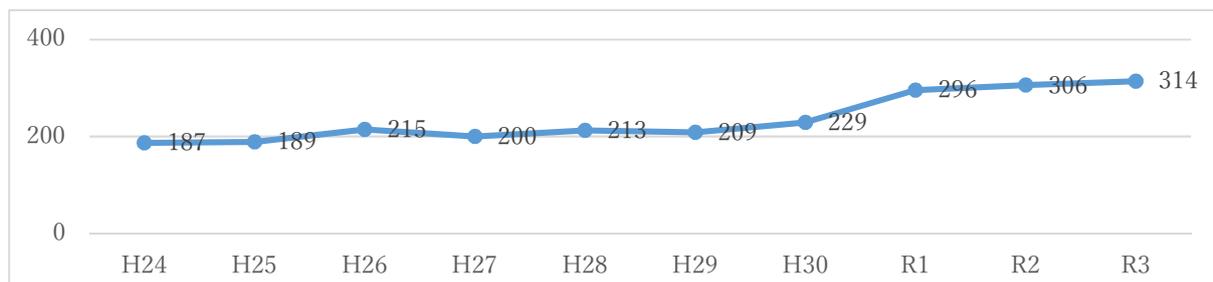


図6 中学校特別支援学級への進学



⑤就学相談フォローアップ

令和3年度、就学児童の様子について指導主事が小学校特別支援学級に38校に訪問し、授業参観をするとともに、必要な支援等について管理職および学級担任等と情報交換をおこなった。

⑥中学校・特別支援学校進路相談連絡会（学校教育部指導課所管）

特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学選抜について、県教育委員会、川崎市中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導にかかわる資料配布に努めた。

⑦通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営（学校教育部指導課所管）

- ・入級審査会実施回数 小学生対象8回、中学生対象7回
- ・審議件数378件（小学生対象312件、中学生対象66件）であった。

令和3年4月1日現在、通級指導教室の在籍者数は以下の通りである。

小学校：言語通級指導教室370名、情緒関連通級指導教室401名、難聴通級指導教室25名

中学校：情緒関連通級指導教室172名、難聴通級指導教室2名

（3）学校コンサルテーションの充実

来所相談した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについて学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は延べ50件だった。

また、令和3年度より、来所相談における検査結果を学校支援につなげていく目的で、検査結果報告書を296ケース作成した。

3 学校の特別支援教育に関する支援の充実

（1）小・中・高等学校における特別支援教育の推進

- ①支援機関の情報共有、進学時の引継の充実のため、個別の指導計画の活用を重点に取り組んだ。学習指導要領の改訂に伴い、昨年度よりサポートノートの書式の書式を提案した。学びの場に応じた書式の確認、活用方法等について、担当者会議や研修の場で周知した。
- ②「令和3年度版 特別支援学級担任のためのハンドブック」を更新し、発行した。
- ③「令和3年度 コーディネーター必携」「必携書式版」を更新し、SAINSに掲載した。

（2）支援人材の活用（学校教育部指導課所管）

- ①中学校の希望校45校（延べ79回）に、巡回相談員を派遣した。小学校への派遣については、コロナウイルス感染拡大防止に一斉臨時休業等の影響もあり、希望調査も含めて実施しなかった。
- ②高等学校支援員：要請のあった高等学校へ38回派遣した。
- ③特別支援学校地域支援部：A手帳、1種1級の身体障害者手帳、難聴の児童生徒が在籍する延べ178回の小中学校へ計画派遣、要請派遣を146回実施した（令和4年1月末時点）。
- ④通級指導教室（情緒・言語）センター的機能：小中学校に1,285回派遣した。

（3）特別支援教育サポート事業（学校教育部指導課所管）

特別支援教育サポート事業の推進（NPO教育活動総合サポートセンターに委託）する目的で、教育相談センターと特別支援教育センター指導主事が講師となり、特別支援及び教育相談にかかわるテーマで、それぞれ半日単位で4コマ（計8コマ）のサポーター研修を実施した。小・中・高等学校に延べ19,330回配置した。

（4）特別支援学校指導主事訪問

市立特別支援学校3校に指導課支援教育課と特別支援教育センター指導主事が訪問して、授業研

研究会を行った。

4 特別支援教育に関わる研修の充実

(1) 必修研修

- ①特別支援学級等新担任者研修（オンライン 3/6 回 オンデマンド 1/6 回 対面 1 回 延べ 776 名）
- ②特別支援学級等新担任者 2 年目研修（オンライン 1/2 回 対面 1 回 延べ 209 名）
- ③通級指導教室新任者等研修（オンライン 3/6 回 対面 2 回 延べ 123 名）
- ④コーディネーター養成研修（オンライン 4/6 回 対面 1/6 回 中止 1 回 延べ 120 名）
- ⑤その他（特別支援学校 3 年目特別研修、臨任研修、サポーター研修）

(2) 希望研修

- ① I コーディネーター専門、II 通級指導教室専門（オンライン 6/6 回 延べ 485 名）
- ② III 重度の障害のある子への支援、IV 聞こえや見え方に課題のある子への支援（オンライン 1/5 回 対面 1/5 延べ 23 名）
- ③ リクエスト研修（指導主事を派遣する校内職員研修）12 回
- ④ その他、県立・市立特別支援学校地域支援部主催の夏季公開研修の実施

(3) その他

- ① 小学校研究会・中学校教育研究部と連携した研修 14 回、② 教育関係研修 14 回、③ その他の研修 16 回 ④ 拡大要請訪問 25 回、⑤ 校内授業研究会等の講師派遣 20 回

5 特別支援教育推進に関わる研究の実施

(1) 長期研究員と研究員による研究

「重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス」という研究テーマで、具体的な目標設定と評価、授業改善を行うことで児童生徒の資質・能力を伸ばさせる授業を行うことができると仮定し、その一実践として言葉による見方・考え方を働かせる国語科の授業づくりに取り組んだ。研究報告会は Google classroom 上で動画公開を行った。97 名が classroom に参加した。そのうちの 37 名が Google meet による報告分科会にも参加した。

6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。その他、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連絡会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。令和3年度の各事業の状況は次のとおりである。

1 教育相談事業の実施状況

(1) 来所面接相談の実施状況

① 来所面接相談件数

表1は令和3年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数408件のうち311件が令和4年度に継続されることになった。

[表1-1 令和3年度 来所面接相談件数と終結件数]

	相談件数	終結件数	令和4年度への継続件数
継続	264	80	184
新規	144	17	127
合計	408	97	311

[表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）]

		相談件数	終結件数	令和4年度への継続件数
不登校	継続	187	48	139
	新規	104	13	91
いじめ関連	継続	11	2	9
	新規	7	0	7

② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については14日以内に担当者から電話連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

[表2 月別、対象別 来所面接相談総回数]

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 面接 相談	教育 相談 室	親	220	226	260	239	205	211	251	270	278	250	262	179	2851
		子	157	164	174	175	154	169	172	193	182	173	168	130	2011
	ゆう ゆう 広場	事前相談	17	21	33	17	7	16	18	18	12	18	15	6	198
		通級相談	3	6	14	18	8	8	7	10	8	5	7	6	100
		継続相談	10	27	25	22	3	43	40	30	29	39	50	15	333
	合 計			407	444	506	471	377	447	488	521	509	485	502	336

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

[表3 月別回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	3	3	5	5	4	2	3	5	0	3	6	6	45

④ 新規来所面接相談の相談内容

[表4 新規来所面接相談の主な相談内容の内訳及び不登校・いじめ関連の相談数(再掲)]

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	3	0	0	0	3	2.08%
性格・行動	82	37	10	0	129	89.58%
進路・適性	0	1	0	0	1	0.69%
身体・神経	2	0	0	0	2	1.39%
その他	5	3	1	0	9	6.25%
合計	92	41	11	0	144	
不登校(再掲)	63	31	10	0	104	72.22%
いじめ関連(再掲)	3	4	0	0	7	4.86%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容(午前9時～午後6時)

[表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳]

	就学前			小学生			中学生			高校生			その他	合計			合計
	保護者	本人	その他		保護者	本人	その他										
知能学業	2	0	0	36	0	3	17	1	0	2	0	0	0	56	0	3	59
不登校	0	0	0	22	0	2	56	1	3	12	1	2	4	90	2	11	103
いじめ	0	0	0	6	1	0	4	0	0	1	2	0	0	11	3	0	14
友人関係	1	0	0	5	5	0	2	0	0	2	4	0	5	9	9	5	23
性格行動	3	0	1	17	0	0	16	7	1	5	11	0	7	41	18	9	68
進路適正	45	0	6	32	0	4	12	0	1	2	1	0	3	91	1	14	106
身体神経	4	0	1	7	0	0	1	1	0	0	2	0	1	12	3	2	17
教育一般	3	0	0	53	5	7	63	0	2	16	2	0	11	134	7	20	161
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	57	0	2	57	59
合計	58	0	8	179	12	16	171	9	7	40	24	2	88	444	45	121	610

② 24時間子供SOS電話相談の件数

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

[表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数]

	受付時間	相談対象者					計
		就学前	小学生	中学生	高校生	その他	
相談 件数	9時～18時	4	40	41	34	74	183
	18時～9時	0	1	4	2	1	8
計		4	41	45	36	75	191
いじめ絡み(再掲)		0	7	3	1	0	11

2 研究・研修の状況

(1) 研究

長期研究員による研究

「自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究

ー本市の教育活動を生かした不登校未然防止の取組ー

カウンセラー研究員による研究

「日常的な教育相談活動の充実

ーコロナ禍におけるカウンセリングマインドを生かした学年の取組ー

(2) 研修

児童支援コーディネーター研修(835研修)

全6回/10回(集合3回、双方向オンライン3回) 延べ361名参加

リクエスト研修(600研修) 10回実施 延べ247名参加

教育相談研修会 全2回(集合1回、オンライン1回) 延べ332名参加

その他

- ① 新規採用教員研修での教育相談研修「様々な子供を理解するために」
- ② サポーター研修会「子どもの理解と支援～困った子は困っている子」
- ③ 生涯学習財団「思春期の心の理解」
- ④ 小学校専科教員研修「児童理解」

3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。
令和3年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

[表7-1 令和3年度 家庭訪問相談状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	72	83	1	156
訪問以外回数	11	12	0	23
合計	83	95	1	179

[表7-2 令和3年度 実施後の状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	16	26	1	43
学校復帰者数	1	1	1	3
好ましい変化	4	3	0	7

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

4 ゆうゆう広場の活動状況

ゆうゆう広場は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には、教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。令和3年度は、14名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

(1) 通級状況

[表8-1 令和3年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男子	0	1	0	5	7	9	22	12	27	16	55	77
女子	0	2	1	2	4	4	13	15	44	32	91	104
合計	0	3	1	7	11	13	35	27	71	48	146	181

[表8-2 令和3年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	9	5	14	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
幸	0	3	3	4	10	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
中原	0	0	0	5	2	7	11	16	27	0	0	1	0	0	0	0	0	0	35
高津	0	0	0	0	0	0	4	3	7	9	12	21	1	0	1	0	0	0	29
宮前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	14	21	0	3	3	2	0	2	26
多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	10	14	0	4	4	22
麻生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	17	18	35	36
合計	9	8	17	10	13	23	15	19	34	17	30	47	5	14	19	19	22	41	181

[表8-3 令和3年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
16	27	43

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

[表8-4 中学校3年生の進路状況]

公立				私立 (サポート校を含む)			専門 学校	就職	フリースクール	家事手伝い	未定	合計
全日制	定時制	通信制	福祉支援校	全日制	定時制	通信制						
2	5	1	0	5	0	35	0	0	0	0	0	48

(2) 体験活動

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ゆうゆう広場全体の取組として例年行われていた、サマーキャンプ、親子ふれあい活動は中止となった。

[表8-5 令和3年度 参加者数]

サマーキャンプ(1泊2日)中止	—
-----------------	---

[表8-6 令和3年度 参加者数]

親子ふれあい活動(10月)中止	—
-----------------	---

5 スクールカウンセラー配置事業

市内の全中学校 52 校と一部の高等学校 5 校（R3.12～、全日制 3 校、定時制 2 校）に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、特別支援コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

[表 9 令和 3 年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

①不登校	②いじめ	③暴力行為	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
10008	134	26	277	1439	7	70
⑧④⑥を除く 家族関係	⑨教職員との 関係	⑩心身の健康・ 保健	⑪学習・進路	⑫発達障害等	⑬その他の主訴	合計
1696	400	3415	1059	1706	861	21098

・ スクールカウンセラー連絡会議・研修会開催日

4 月 2 日（金） 7 月 8 日（木） 11 月 17 日（水） 2 月 8 日（火） 計 4 回
→中止

6 学校巡回カウンセラー派遣事業

学校巡回カウンセラー 7 名を教育相談センターへ配置し、市立小学校・特別支援学校・高等学校への派遣を行った。また、市立学校における事件事故に関わる緊急支援としての派遣を行った。相談件数は増加しており児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながっている。

[表 10 令和 3 年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数]（緊急支援を含む）

小学校・特別支援学校	中学校	高等学校	計
1 0 7	2 2	1 2 5	2 5 4

[表 11 令和 3 年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教員	計
小学校	5 2 7	1 0	4 9 1	1 0 2 8
中学校	1 5	2 5	3 9	7 9
特別支援学校	9	0	9	1 8
高等学校	1 2 1	4 2 9	5 5 6	1 1 0 6
計	6 7 2	4 6 4	1 0 9 5	2 2 3 1

7 不登校対策連絡会議

例年、不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員 30 名ほどが集まり、年 2 回の不登校対策連携会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和 3 年度は、第 1 回は実施、第 2 回は書面での開催となった。

8 不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会

令和 3 年 9 月 18 日（土）川崎市総合教育センターにおいて、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など 100 名が来場し、224 件の個別相談が行われた。

7 広報及び刊行物等

1 川崎市総合教育センター所報

[発行] 令和3年7月、令和4年2月

[発行部数] 1,000部（A4判）

[主な記事] 第1号『【巻頭言】Colors, Future!いろいろって、未来。』

『カリキュラムセンター 事業・業務』

『情報・視聴覚センター 事業・業務』

『特別支援教育センター 事業・業務』

『教育相談センター 事業・業務』

『令和3年度 教育委員会研究推進校一覧』

第2号『【巻頭言】「温める」雰囲気づくり』

『【特集】情報・視聴覚センター かわさきGIGAスクール構想』

『カリキュラムセンター 「主体的に学習に取り組む態度」の
学習評価について』

『特別支援教育センター 特別支援教育と1人1台端末』

『教育相談センター 子どもに寄り添った支援のために』

2 総合教育センター要覧 令和3年度

[発行] 令和3年9月

[発行部数] 500部（A4判）

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
1	事業報告書	3月	A4	48	600
2	小学校「自己実現を図り、持続可能な社会 を創る資質・能力の育成I」	3月	A4	50	冊子9,000 CD4,200
3	中学校「自己実現を図り、持続可能な社会 を創る資質・能力の育成I」	3月	A4	36	9,370
4	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」 を目指した教育課程編成のための資料VI 総則	3月	A4	58	7,310

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
5	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A 4	8	2,600
6	川崎市立高等学校教育実践の記録	3月	A 4	96	656
7	夢を育てよう	5月	A 4	6	12,000
8	研究紀要 第28号	4月	A 4	195	450
9	研修案内	4月	A 4	73	500
10	研修一覧	4月	B 2	1	300
11	副読本かわさき2020	3月	A 4	190	13,900
12	初任者研修の手引き	4月	A 4	65	520
13	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	130	850
14	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	60	900
15	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	新型コロナの影響で発行なし		
16	中堅教諭等資質向上研修 研修の手引き	4月	A 4	30	650
17	中堅教諭等資質向上研修 研修ノート	4月	A 4	22	650
18	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	105	430
19	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2月	A 4	292	200
20	保健体育学習指導の手引き	3月	新型コロナの影響で発行なし		
21	スクールカウンセラー配置事業報告書	5月	A 4	104	135
22	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	5月	A 4	20	300
23	特別支援学校担任のためのハンドブック	3月	A 4	49	362
24	5分でわかる情報教育Q&A	3月	A 4	98	1,700

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
25	川崎市立学校における教育の情報化推進計画	3月	A 4	75	400
26	小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き	9月	A 4	40	3,000

4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

令和3年度 事業報告書

令和4年12月

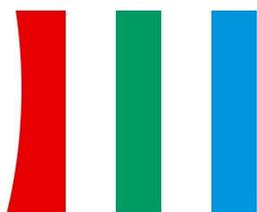
編集・発行 川崎市総合教育センター

所在地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市